

政治・選挙に関するアンケート調査報告書

平成 25 年 3 月

金沢市選挙管理委員会
金沢大学人間社会学域法学類・投票行動論研究室

目 次

I アンケート調査実施要領	-----	1
II 回収の結果について	-----	2
III 市民アンケートの回答の概要	-----	4
IV 大学生アンケートの回答の概要	-----	32
V おわりに	-----	53
VI 資料（調査票）	-----	55

I アンケート調査実施要領

1. 目的

金沢市選挙管理委員会及び金沢大学人間社会学域法学類・投票行動論研究室（代表：金沢大学教授 岡田 浩）は、投票率の低い若年層に対する選挙啓発の取り組みの参考にするため、無作為抽出された金沢市の有権者と若年層の中でも特に投票率の低い大学生を対象にした政治・選挙に関する意識や行動についてのアンケートを実施した。

2. 調査方法

市民アンケート

平成 24 年 6 月 1 日現在の金沢市の選挙人名簿登載者 363,085 人の中から無作為に抽出した 2,000 人について 7 月 9 日に調査票を郵送し、調査票を、同封した回答用封筒で無記名で返送する方法で実施した。回答期限は 7 月 17 日とし、集計にあたっては 7 月末日到達分までを対象とした。白紙を除く有効回収数は 1,022、有効回収率は 51.1% であった。

大学生アンケート

平成 24 年 7 月に、石川県内の金沢大学（金沢市）・金沢星稜大学（金沢市）・金城大学（白山市）において、一般教養科目あるいは専門科目の政治学の授業の一環として調査票を配布し無記名で回収した。白紙を除く有効回収数は 359 であった。

II 回収の結果について

1. 市民アンケート

市民アンケートの年齢層別の回収数とパーセンテージ、および抽出時の選挙人名簿登載者数とパーセンテージは下表のとおりである。20代・30代の若年層はアンケートの回収率が低いことから、実際の年齢構成比よりも少なくなっていることに注意が必要である。

	回収数	%
20代	54	5.3%
30代	140	13.7%
40代	154	15.1%
50代	182	17.8%
60代	267	26.1%
70代	150	14.7%
80歳以上	58	5.7%
年齢無回答	17	1.7%
合計	1,022	100.0%

	選挙人名簿登載者数	%
20代	48,386	13.3%
30代	64,325	17.7%
40代	61,871	17.0%
50代	53,171	14.6%
60代	63,701	17.5%
70代	41,721	11.5%
80歳以上	29,910	8.2%
合計	363,085	100.0%

2. 大学生アンケート

大学生アンケートの回収数は 359 であったが、内訳は下表のとおりである。

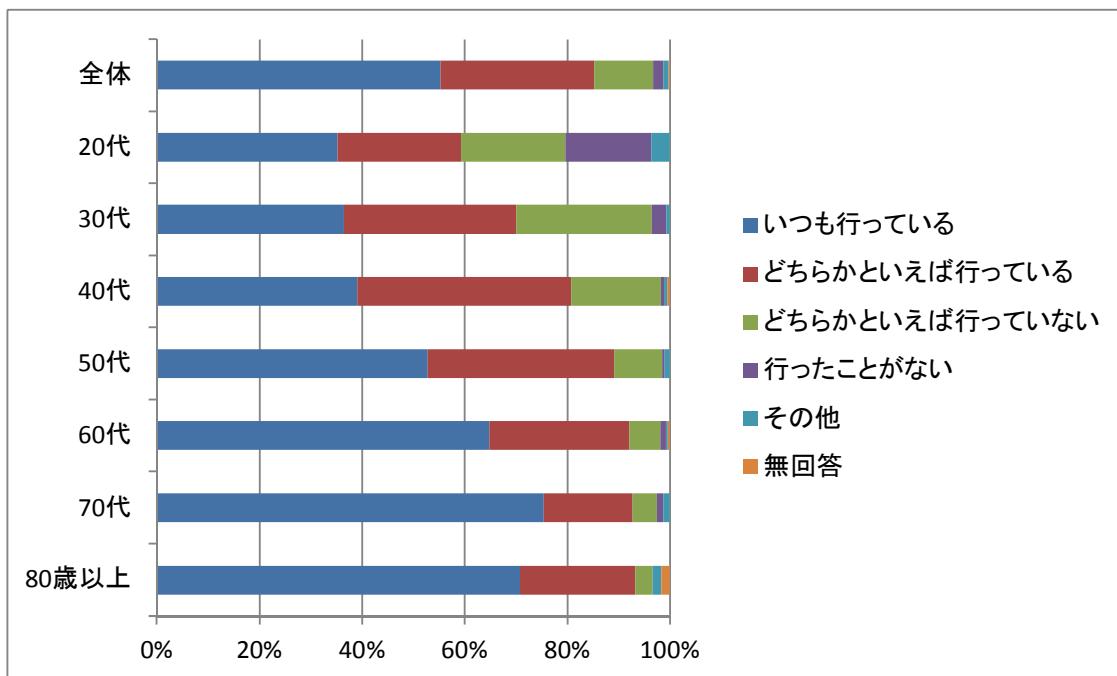
	回収数	%
金沢大学	207	57.7%
金沢星稜大学	81	22.6%
金城大学	71	19.8%
合計	359	100.0%

	回収数	%
法学部／法学類	153	42.6%
経済学部／経済学類	89	24.8%
社会福祉学部	63	17.5%
その他の学部	42	11.7%
その他(大学院生など)	1	0.3%
無回答	11	3.1%
合計	359	100.0%

	回収数	%
1年生	214	59.6%
2年生	28	7.8%
3年生	66	18.4%
4年生以上	39	10.9%
無回答・その他	12	3.3%
合計	359	100.0%

III 市民アンケートの回答の概要

[市民アンケート：問1]あなたは、ふだん選挙の時に投票を行っていますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。



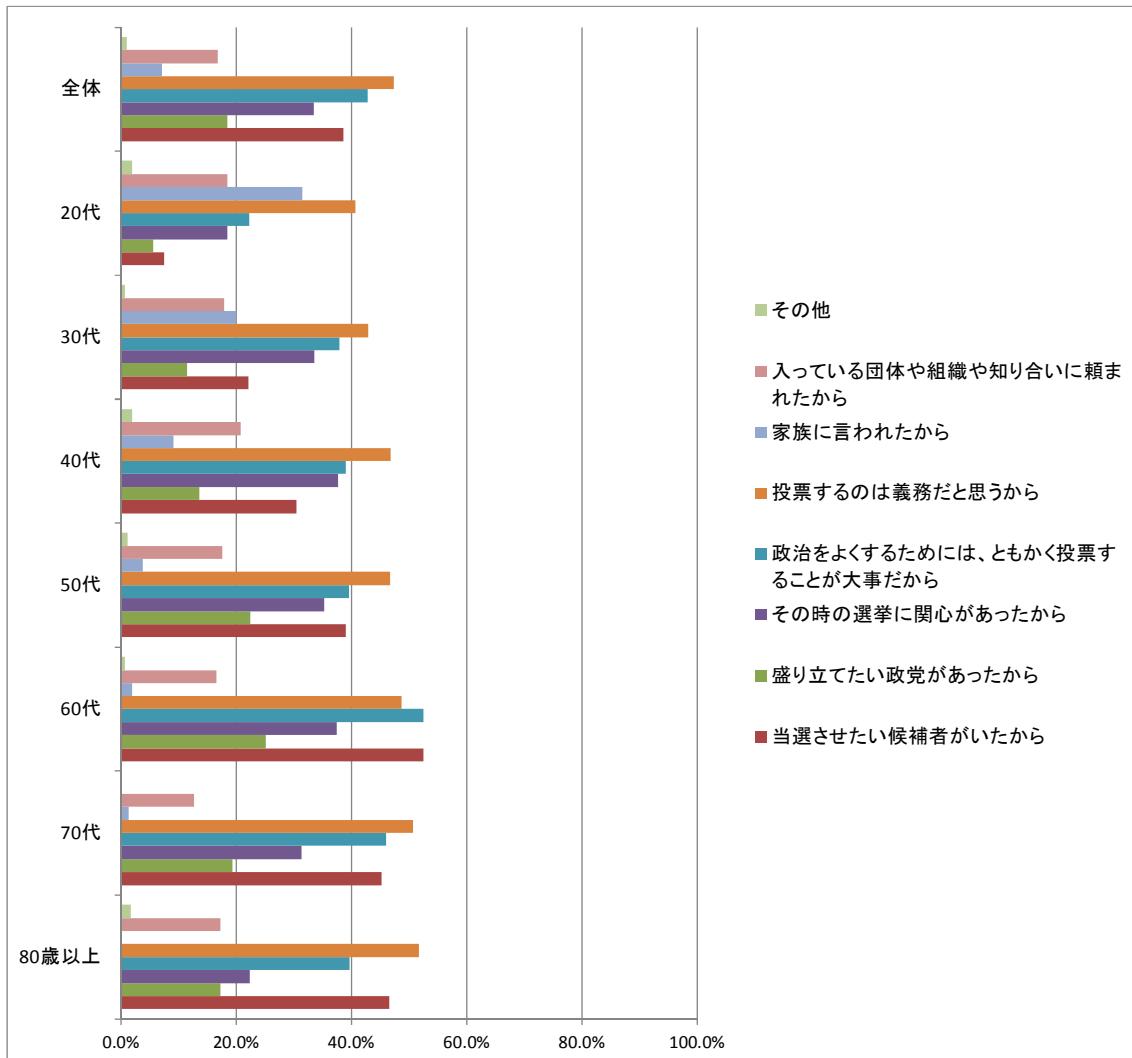
市民アンケートを行った平成24年7月の時点で直前に選挙がなかったため、[問1]では、特定の選挙への投票参加ではなく、ふだんの投票参加の状況を質問した。

「いつも行っている」と「どちらかといえば行っている」を足した割合を見ると、全体集計では85.2%であるが、年齢層別にみると、80歳以上が93.1%で最も高く、年齢が若いほど低くなり20代では59.3%となっている。若年層の投票参加の少なさがはっきりと表れている。

若年層でも特に学生の投票参加が少なく、20代全体では「いつも行っている」と「どちらかといえば行っている」を足した割合は59.3%であったのに対して、20代のうち職業について「学生」と回答した人では36.4%であった（グラフは省略）。

本報告書では、20代と30代を「若年層」として、それ以外の年齢層との回答の違いを中心に集計結果を検討していく。

[市民アンケート：問2]過去に投票に行ったのは、どういうお気持ちからですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。



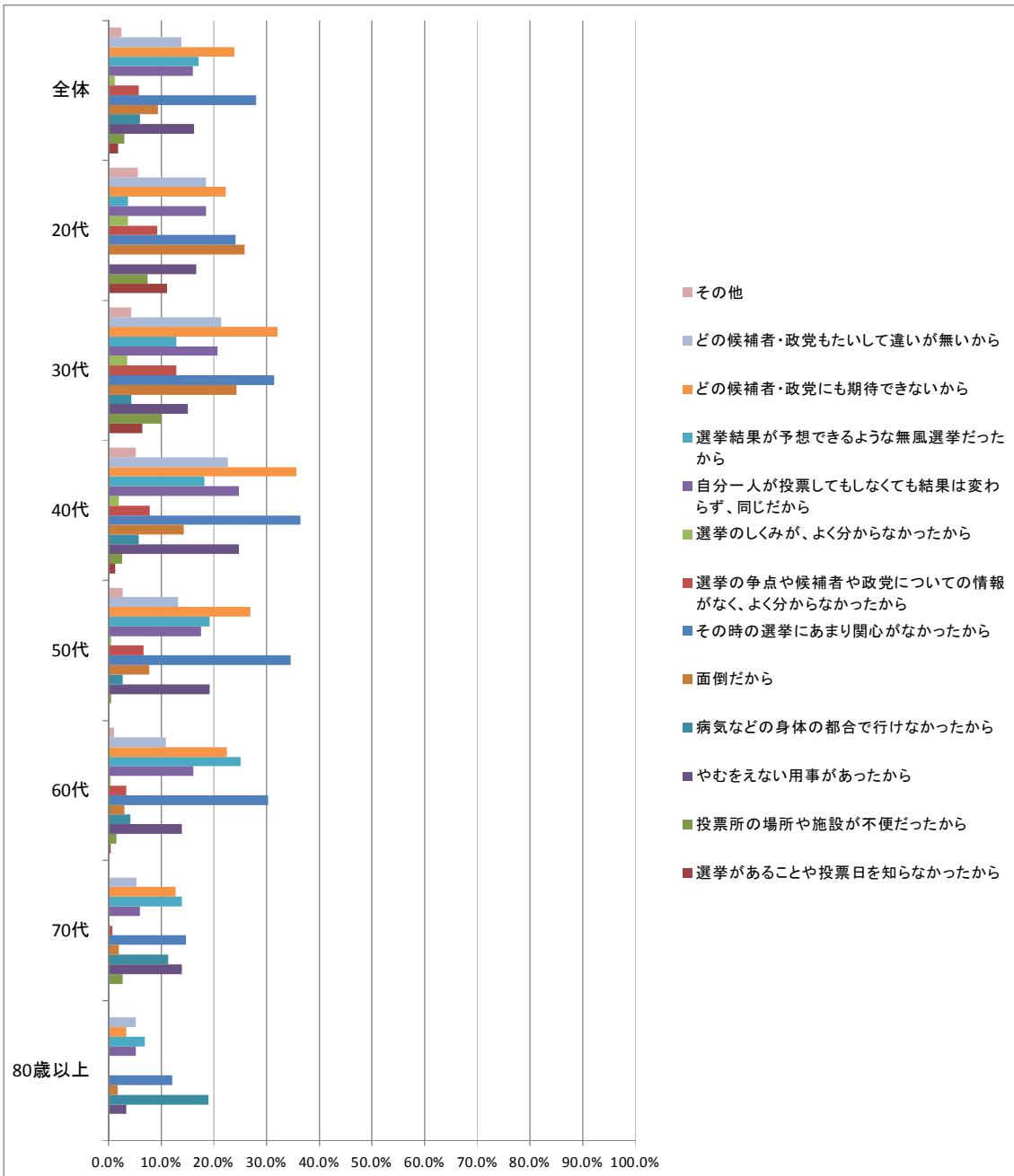
過去に投票に行った理由について質問した[問2]については、全体集計では、最も多いのは「投票するのは義務だと思うから」(47.4%)で、「政治をよくするためには、ともかく投票することが大事だから」(42.8%)、「当選させたい候補者がいたから」(38.6%)、「その時の選挙に关心があったから」(33.5%)、などが続いている。

年齢層別にみると、若年層は、「義務だと思うから」が最も多いことでは全体と共通しているが(20代40.7%、30代42.9%)、2位以下は全体とかなり違いが見られる。「家族に言わされたから」は、若年層の回答が全体よりも多い(全体が7.1%であるのに対して、20代31.5%、30代20.0%)。逆に少ないのは「当選させたい候補者がいたから」(全体38.6%に対して、20代7.4%、30代22.1%)と「盛り立てたい政党があったから」(全体18.5%に対

して、20代5.6%、30代11.4%)である。

若年層は、応援したい候補者や政党がいるなど選挙の中身への関心から投票に行くというよりも、義務感や家族からの働きかけで投票することが多いようだ。

[市民アンケート：問3]過去に投票に行かなかったのは、どういうお気持ちからですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

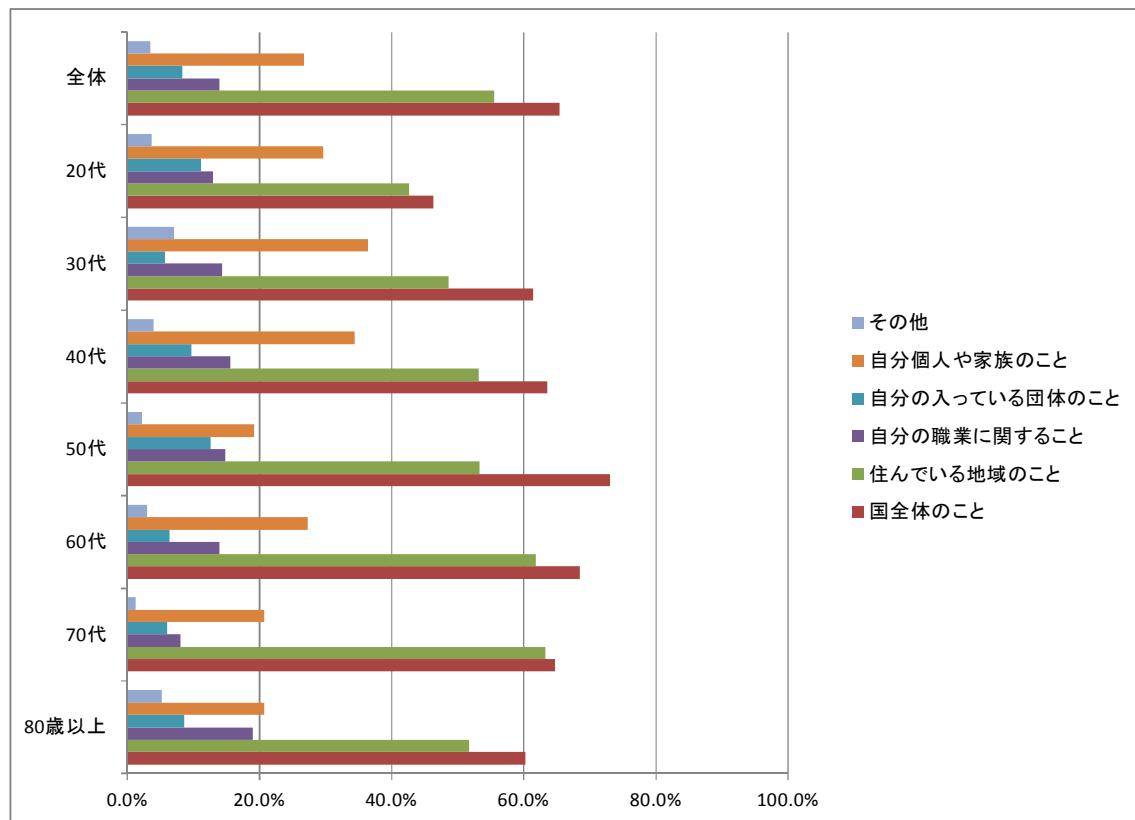


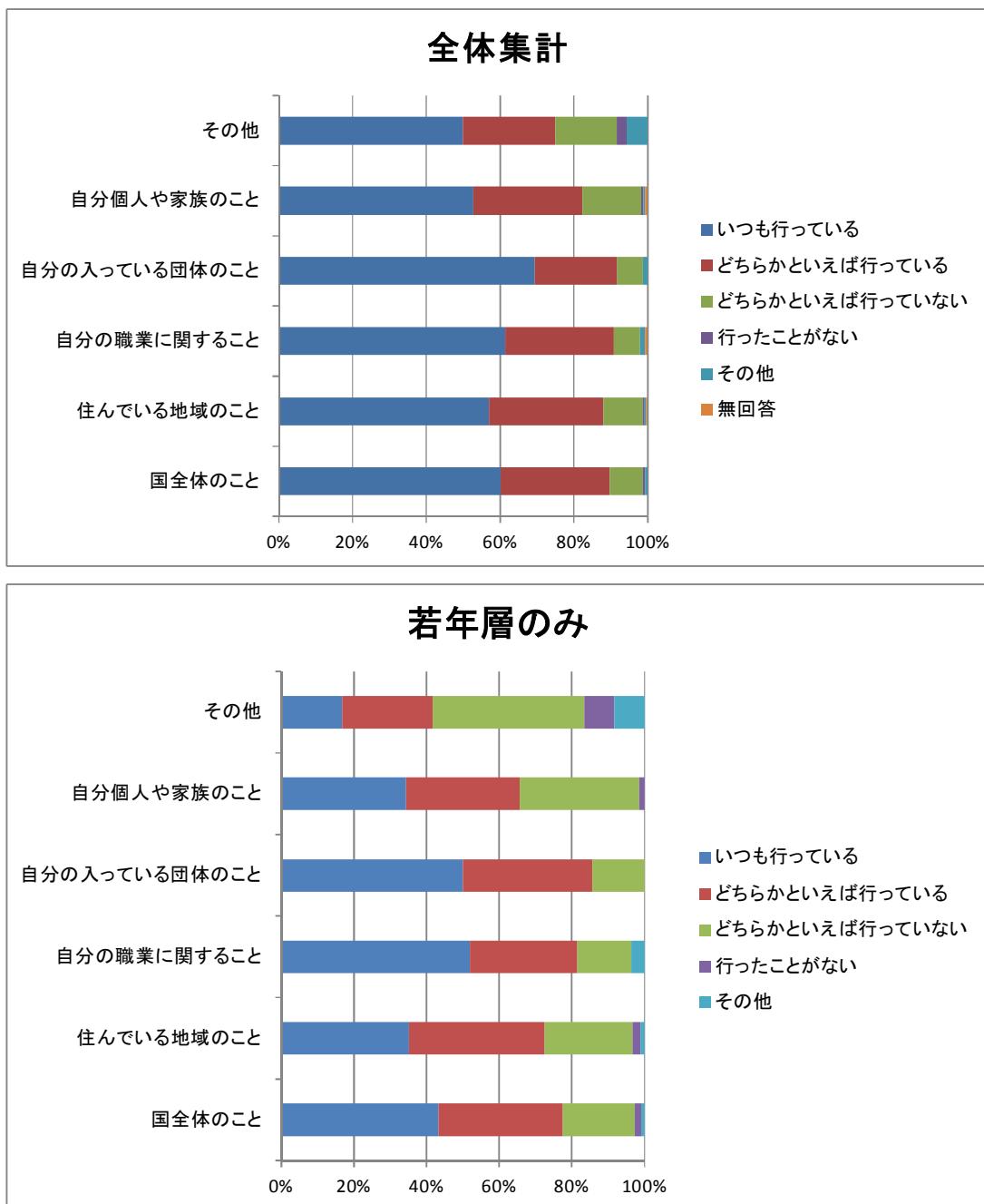
過去に投票に行かなかった理由について質問した[問3]については、全体集計では、「その時の選挙にあまり関心がなかった」が28.0%で最も多く、「どの候補者・政党にも期待できない」の23.9%が続いている。

年齢層別にみると、若年層も、「その時の選挙に関心がなかった」(20代24.1%、30代31.4%)と「どの候補者・政党にも期待できない」(20代22.2%、30代32.1%)が多い。若年層の特徴は「面倒だから」が多いことで、20代25.9%、30代が24.3%となっており、全体の9.4%よりもかなり多い。若年層に多かった回答としては他に、「どの候補者・政党もたいして違いが無い」(20代18.5%、30代21.4%)と「自分一人が投票してもしなくても結果は変わらず、同じ」(20代18.5%、30代20.7%)が挙げられる。

若年層は、候補者・政党の違いがよく分からず、どこにも期待できないと感じており、選挙の中身に関心を持てずにいるようだ。また、中身だけでなく選挙という制度自体について冷めた見方をしており、自分の一票で結果が変わるわけでもなく面倒と感じる傾向があるようだ。

[市民アンケート：問4]選挙でどの候補者や政党に投票するかを決める際に、おもに考えるのは次のうちどれですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。





国会議員には、「全国民の代表」と「地域（選挙区）の代表」と「（職業に関する団体など自分を支持してくれる）集団の代表」という3つの役割があるといわれるが、有権者はどのような利益を考慮して投票し、議員にどのような利益を代表することを期待しているのだろうか。

投票時に考慮することについて質問した[問4]については、全体集計では、「国全体」が65.4%で最も多く、「住んでいる地域」(55.4%)、「自分個人や家族」(26.7%)、「自分の職業」(13.9%)、「団体」(8.3%)、と続く。

年齢層別にみると、若年層も、多い順に「国全体」「住んでいる地域」「自分個人や家族」

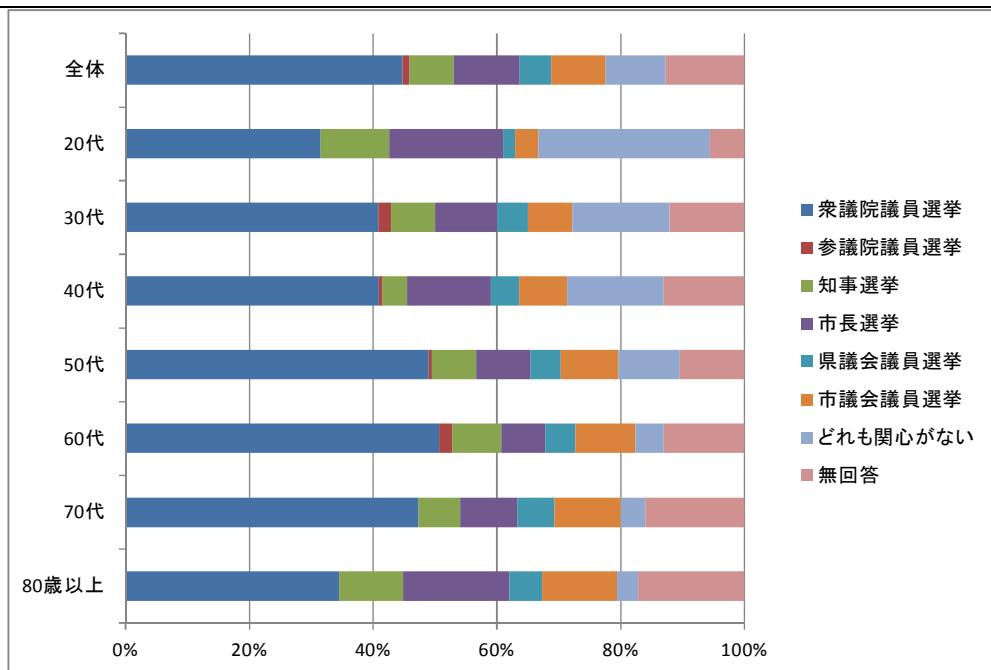
「自分の職業」「団体」となっているのは全体と共にしているが、「自分個人や家族」が全体より多い（全体が 26.7%であるのに対して、20 代 29.6%・30 代 36.4%）。逆に少ないのは、「住んでいる地域」（全体が 55.4%であるのに対して、20 代 42.6%・30 代 48.6%）や「国全体」（全体が 65.4%であるのに対して、20 代 61.4%・30 代 46.3%）である。「国全体」は年齢が上がるほど多くなり 50 代がピーク、「住んでいる地域」も年齢が上がるほど多くなり 70 代がピークになっている。

この投票時に考慮することについての回答と[問 1]の投票参加状況の関係をみると（2 つめのグラフ）、「国全体」を考慮する人は、「投票にいつも行っている」と「どちらかといえば行っている」を足すと 89.6%、「住んでいる地域」を考慮する人は 88.1%で、投票参加する人が多いのに対して、「自分個人や家族」を考慮する人は 82.4%となっており、投票参加が少ない。

「自分個人や家族」を考慮する人が若年層に多いために投票参加が少なくなっている可能性も考えられるが、若年層だけでグラフを作成してみても（3 つめのグラフ）、「自分個人や家族」を考慮する人の投票参加は、「国全体」や「地域のこと」を考慮する人よりも少ないので、年齢にかかわらず「自分個人や家族」を考慮する人の投票参加が少ないといえる。

若年層は自分個人や家族のことなど身近なことに関心が向いているが、その関心が、選挙で主に争点となっている国や地域の問題に対する関心につながっておらず、それが若年層の投票参加の少なさにつながっている可能性がある。自分の暮らしと国や地域の政治がつながっていることについての理解を促すことが、若年層の投票率向上に有効かもしれない。

[市民アンケート：問 5] 投票に行っているかどうかは別として、あなたは、どの選挙にもつとも関心がありますか。当てはまる番号を 1 つ選んで下さい。



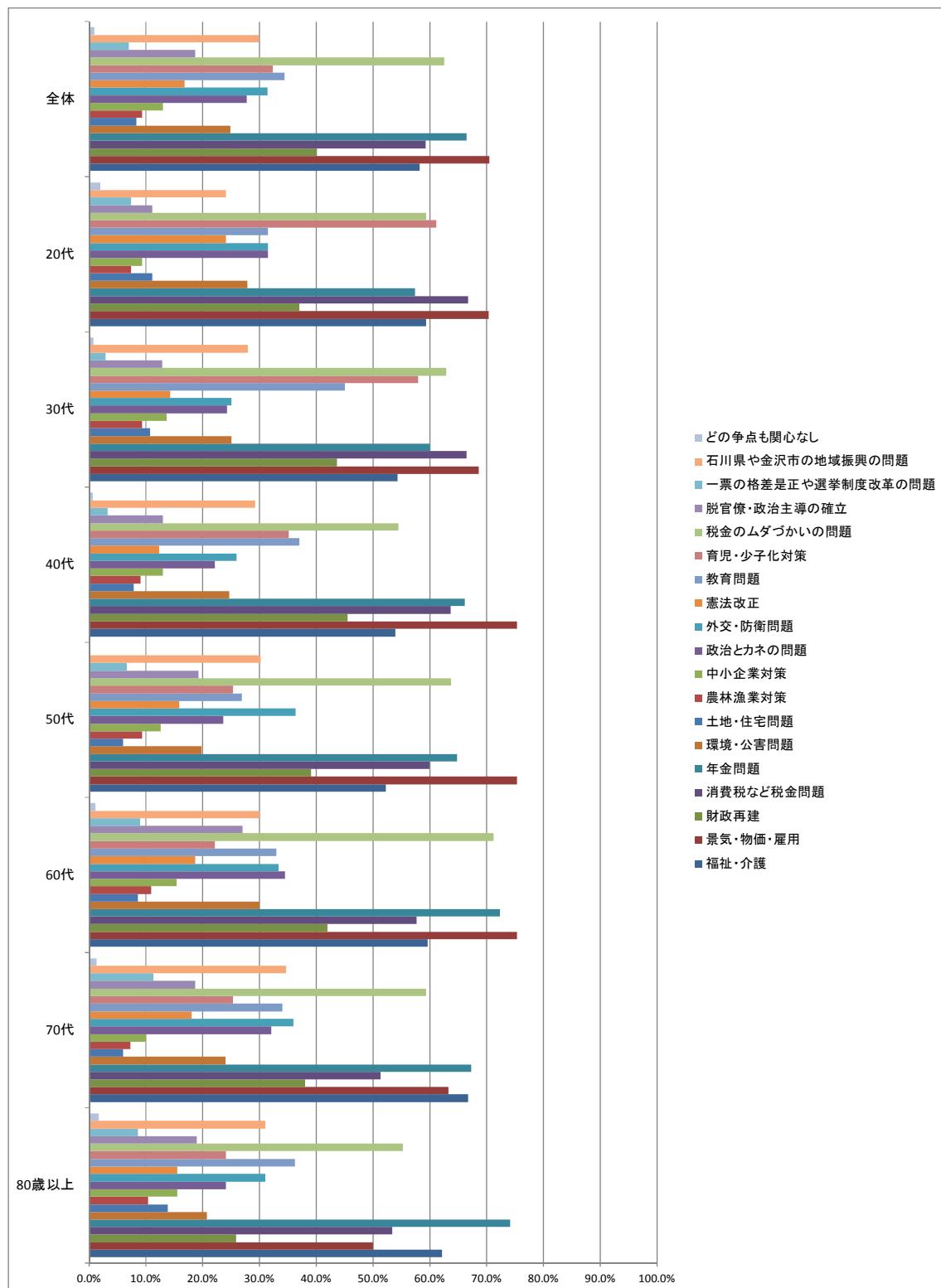
[問5]では、どの選挙に関心があるか1つだけ選んでもらったが、全体集計では、衆議院選挙が44.7%で最も多く、「どれも関心がない」は9.8%であった。県と市の選挙を比較すると、知事選挙7.1%<市長選挙10.7%、県議選5.0%<市議選8.8%となっており、身近な基礎的自治体である市の選挙の方に関心を持つ人が多い。首長選挙と議員選挙を比べると、県も市も首長選挙の方に関心を持つ人が多い（知事選挙7.1%>県議選5.0%、市長選挙10.7%>市議選8.8%）。

年齢層別にみると、若年層で特に多いのは「どれも関心がない」（全体9.8%に対して、20代27.8%・30代15.7%）である。20代で首長選挙への関心が高い（知事選11.1%・市長選18.5%）ことも特徴として挙げられる。議員選挙に比べて首長選挙は候補者や争点などについてメディアの報道が多く、選挙の構図もわかりやすいためであろうか。

先の[問4]で、国全体のことを考慮して投票する人は50代がピークでそれよりも高齢になると低下している一方で、住んでいる地域のことを考慮して投票する人はそれより遅い70代がピークになっていたが、この[問5]でも、衆議院選挙への関心は60代がピークでそれよりも高齢になると関心が低下するのに対して、地方選挙への関心はその後も持続するという、似たような傾向になっているのは興味深い。働き盛りの年齢層では自分の仕事に関することなどで国を意識することが多いが、引退すると、日々の生活に身近な地域のことに関心が向かうのであろうか。

若年層は国の選挙や地方の議員選挙への関心が薄いが、自分の暮らしと国の政治がつながっていることについての理解を促したり、構図がより複雑な議員選挙についての情報をわかりやすく伝えることなどが必要かもしれない。

[市民アンケート：問6]投票に行っているかどうかは別として、あなたはどのような選挙の争点に关心がありますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。



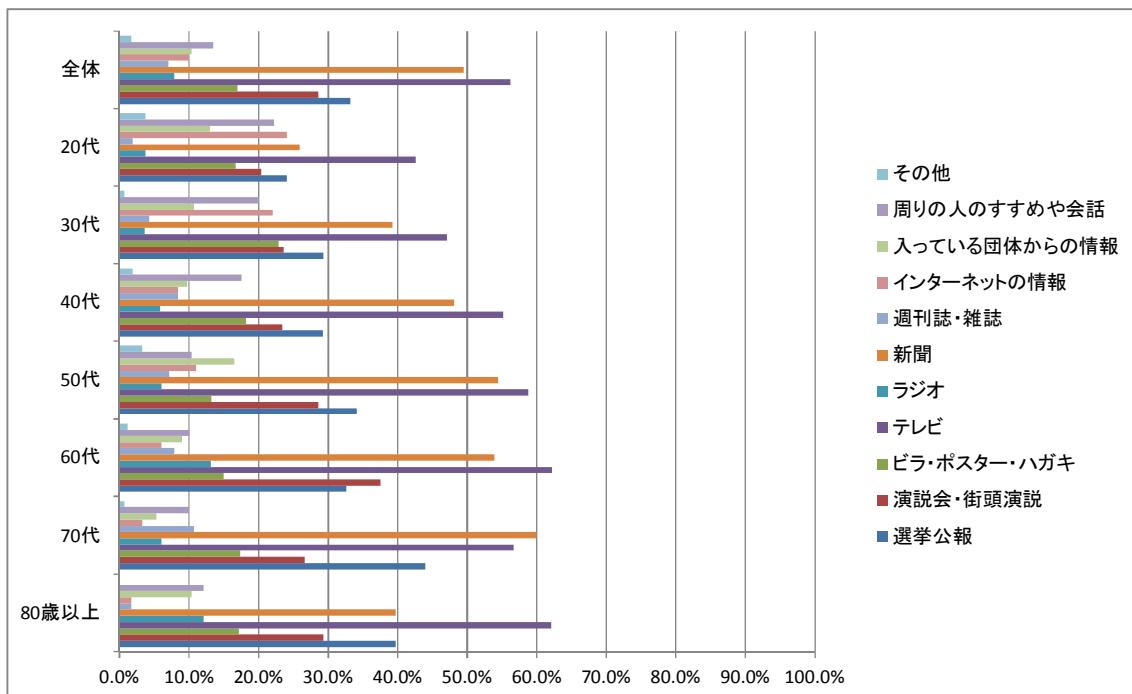
どのような選挙の争点に关心があるかを複数回答可で質問した[問6]については、全体集計では、多い回答から順に、「景気・物価・雇用」70.5%、「年金問題」66.4%、「税金のムダづかいの問題」62.5%、「消費税など税金問題」59.2%、「福祉・介護」58.2%、などとなっていた。景気・物価・雇用や社会保障など、生活に関わる身近な争点が多く選択されるのは、これまで様々な機関によって行われてきた世論調査の結果と共通しているが、「税金のムダづかいの問題」が多かったことは目を引く。アンケート調査当時に政権与党であった民主党による政府の「事業仕分け」の影響や、消費税増税法案が当時国会で審議されており増税よりムダづかいを無くすことを優先すべきであるという主張があったことの影響であろうか。

年齢層別にみると、若年層が全体と比べて特に多いのは「育児・少子化対策」で、全体が32.3%であったのに対して、20代が61.1%、30代が57.9%であった。「消費税など税金問題」も全体より多く、全体が59.2%であったのに対して、20代が66.7%、30代が66.4%であった。その他、全体よりは選択が少なかったが、「景気・物価・雇用」「年金問題」「税金のムダづかい」「福祉・介護」も多かった。

逆に若年層で少なかったのは、「脱官僚・政治主導の確立」(全体が18.7%であるのに対して20代が11.1%、30代が12.9%)と「地域振興の問題」(全体が29.9%であるのに対して20代が24.1%、30代が27.9%)であった。

若年層の投票率の低さは、育児・少子化対策や税金問題など、若年層にとって身近な争点が選挙であまり取り上げられていない、ということにも原因があるかもしれない。また、選挙啓発にあたっては、必ずしも身近とはいえない問題についても、その重要性について若年層の理解を促すことが必要かもしれない。

[市民アンケート：問7]投票に行っているかどうかは別として、選挙の際に役立っていると思うものは何ですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。



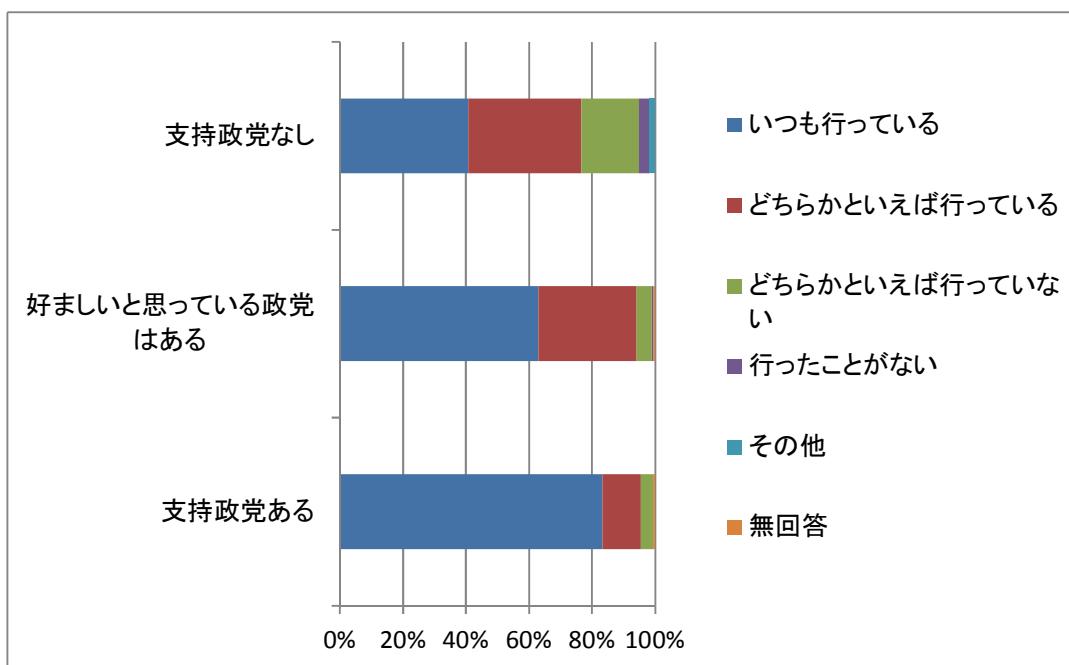
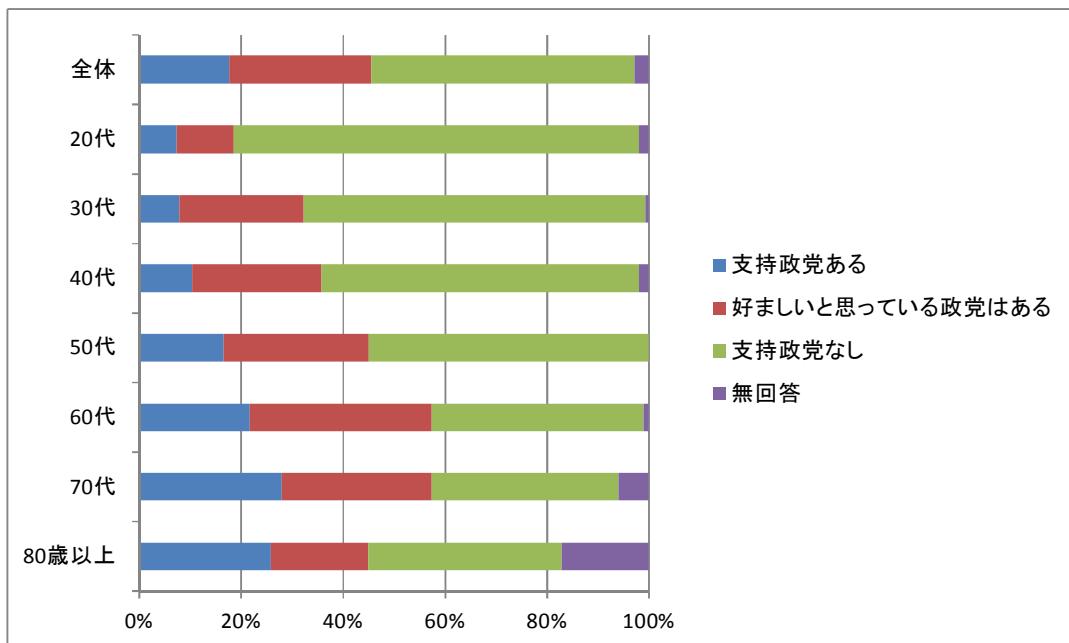
選挙の際に役立っていると思うメディアについて質問した[問7]については、多い回答から順に、「テレビ」(56.2%)、「新聞」(49.5%)、「選挙公報」(33.2%)、「演説会・街頭演説」(28.6%)、などとなっていた。

年齢層別にみると、全体集計と比べて若年層で特に多いのは、「インターネットの情報」(全体が 10.0%であるのに対して、20 代 24.1%、30 代 22.1%) や「周りの人のすすめや会話」(全体が 13.5%であるのに対して、20 代 22.2%、30 代 20.0%) である。逆に全体と比べて少ないのは、「演説会・街頭演説」(全体が 28.6%であるのに対して、20 代 20.4%、30 代 23.6%)、「テレビ」(全体が 56.2%であるのに対して、20 代 42.6%、30 代 47.1%)、「新聞」(全体が 49.5%であるのに対して、20 代 25.9%、30 代 39.3%)、などである。

テレビや新聞といったマスメディアは若年層でも役立ったという回答が 1、2 位を占めており、依然として選挙の有力な情報源だが、若年層は他の年齢層に比べてインターネットの情報を高く評価している。また、意外なことに、周りの人のすすめや会話を高く評価していることは注目される。

若年層に選挙に関する情報を伝えるには、インターネットの活用や、周りの人との選挙に関する会話を促すことが有効かもしれない。

[市民アンケート：問8]ふだん支持している政党がありますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。



近年、支持する政党を持たない「無党派層」の増加が注目されているが、支持政党の有無について質問した[問8]への回答でも、全体集計では、「支持政党がある」に「好ましいと思っている政党はある」を足しても45.6%で5割に達しなかった。

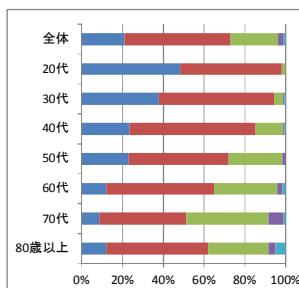
年齢層別にみると、80歳以上を除いて、若い年齢層ほど支持なしが多くなっている。

[問1]の投票参加状況との関係をみると（2つめのグラフ）、支持政党を持たない人の方が棄権が多くなっている。

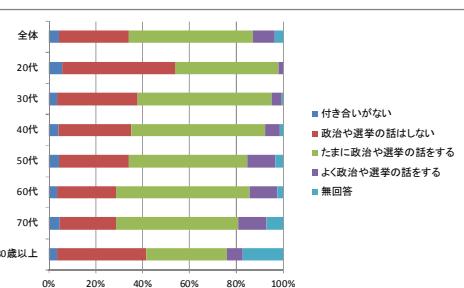
[問2]の投票理由や[問3]の棄権理由の集計結果とあわせて考えると、政党の違いがわからないなどの理由で支持する政党を持たず、投票に積極的に行く理由を見出せないことが、若年層の低投票率につながっている可能性がある。選挙啓発にあたっては、政党や候補者の違いについて理解を促すような方策が有効かも知れない。

[市民アンケート：問9]あなたは、次の方々と、政治や選挙についての話をすることがありますか。それについて、当てはまる番号を1つ選んで下さい。

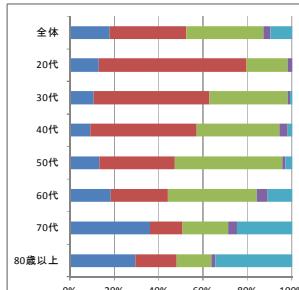
近所の人との会話



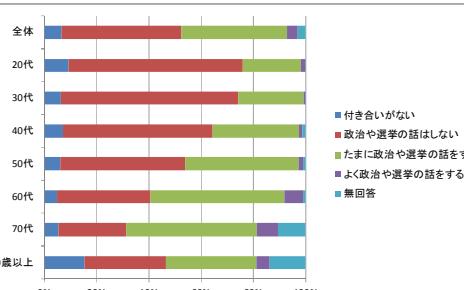
家族・親戚との会話



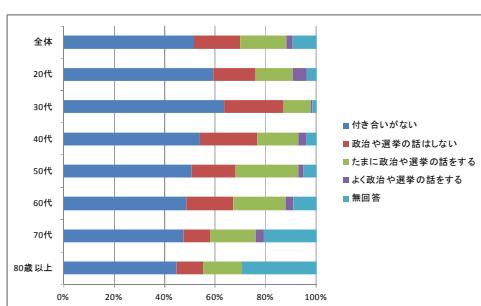
職場・学校の人との会話



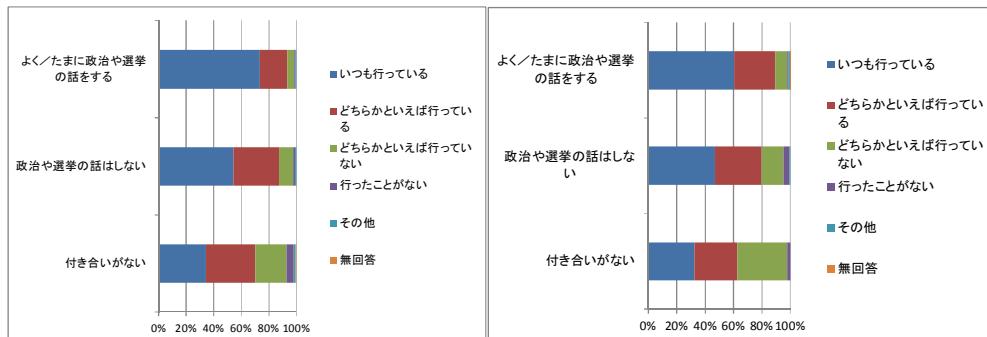
友人・知人の会話



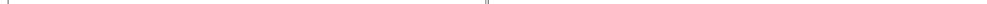
入っている団体の人（仕事関係の団体・労働組合・宗教団体・市民団体など）との会話



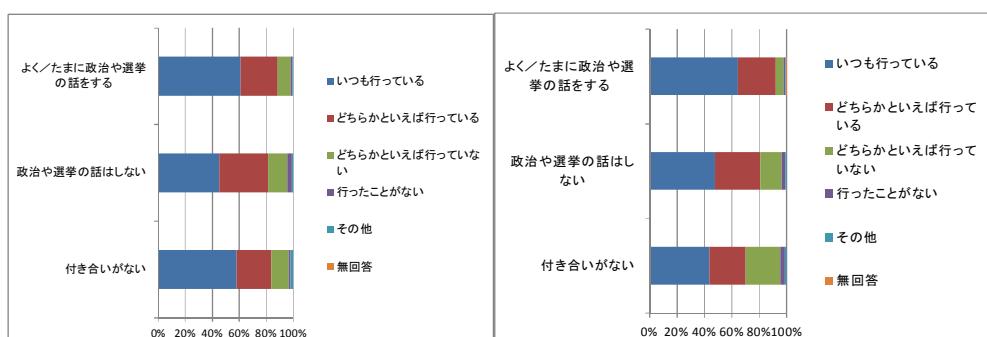
近所の人との会話と投票参加



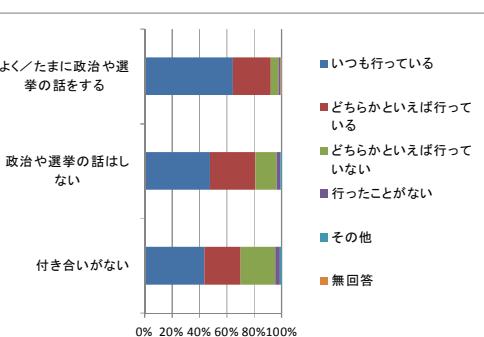
家族・親戚との会話と投票参加



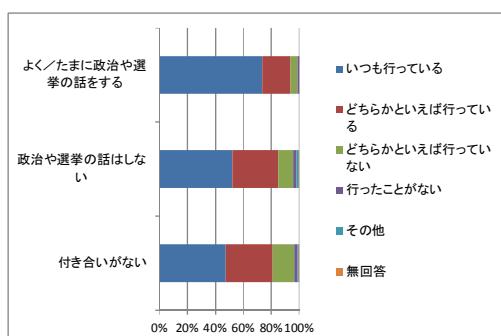
職場・学校の人との会話と投票参加



友人・知人の会話と投票参加



入っている団体の人（仕事関係の団体・労働組合・宗教団体・市民団体など）との会話と投票参加



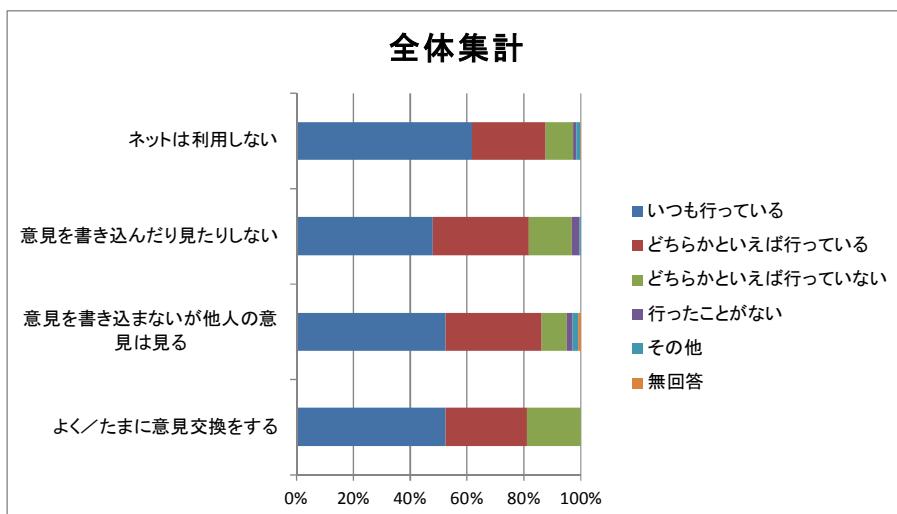
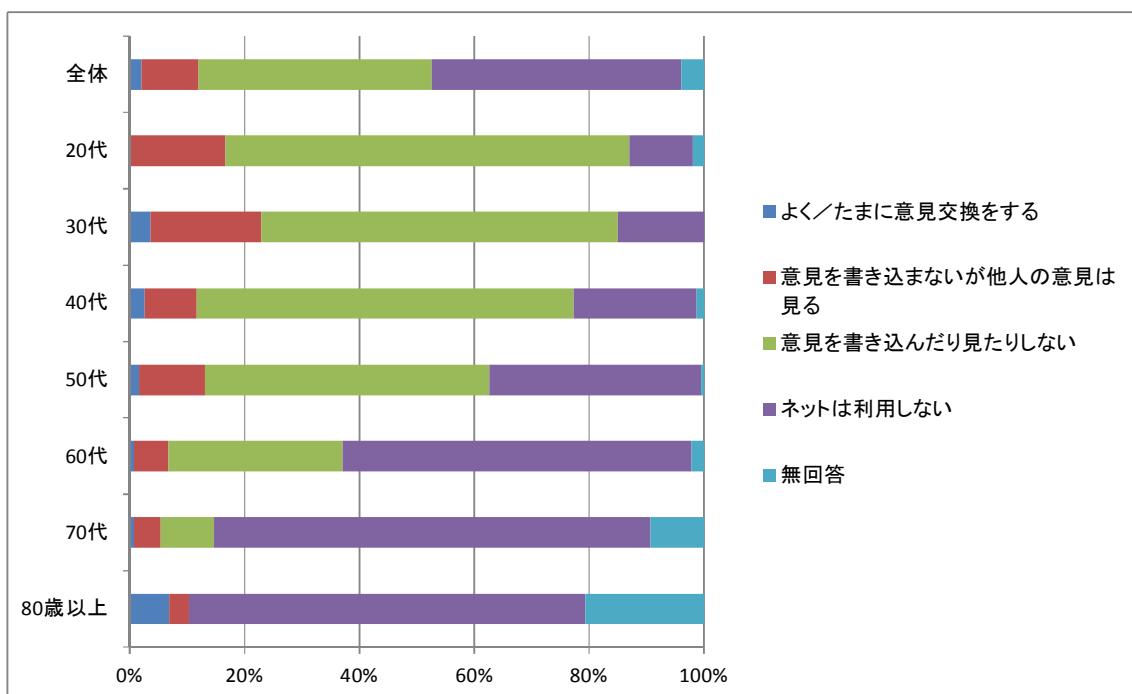
近所の人など周囲の人と政治や選挙の話をするかについて質問した[問9]については、若年層に「近所の人」や「団体」について付き合いがないという人が多い。また、付き合いがあったとしても「家族・親戚」を除いては政治や選挙の話をしない人が多い。先の[問7]では、若年層に「周りの人のすすめや会話」が選挙の際に役立っているという回答が多かったが、「周りの人」とは主に家族や親戚のことを指すようである。

「よく話をする」という回答が極端に少ないので「たまに」という回答と合わせた上で[問1]の投票参加状況との関係をみると（後半の5つのグラフ）、付き合いがない、あるいは付き合いがあったとしても政治や選挙の話をしない人は棄権する傾向があることが分かる。

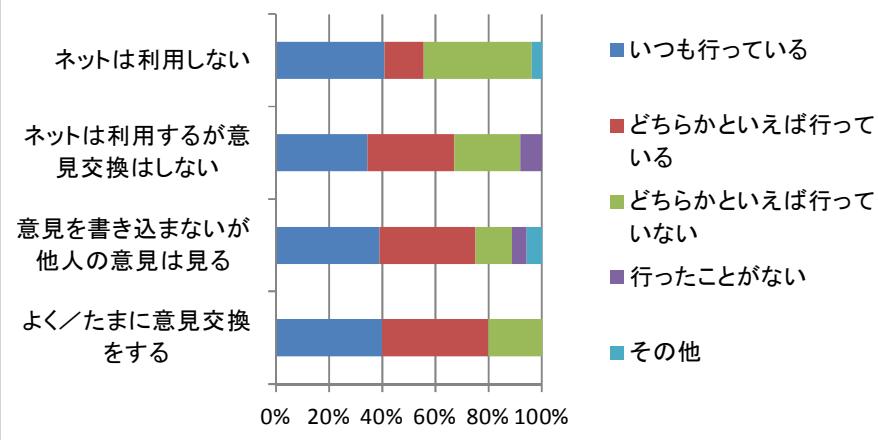
周囲の人と政治や選挙についての会話をすることで、情報を得たり、関心をかき立てられたり、投票を促されたりすることが、投票参加につながるのであろうか。

家族や親戚との政治や選挙についての会話をさらに促すこと、さらには、付き合いはあるものの政治や選挙についての会話があまりおこなわれていない職場・学校の人や友人・知人との会話を促すことが、若年層の投票率向上に有効かもしない。

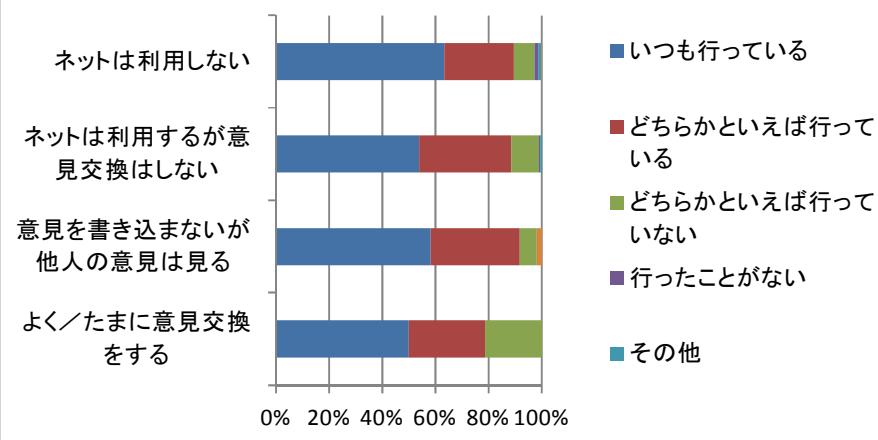
[市民アンケート：問10]あなたはインターネット上で、選挙や政治についての意見交換をすることがありますか（電子掲示板・フェイスブックやツイッター等のSNS・電子メールなど）。当てはまる番号を1つ選んで下さい。



若年層



若年層以外



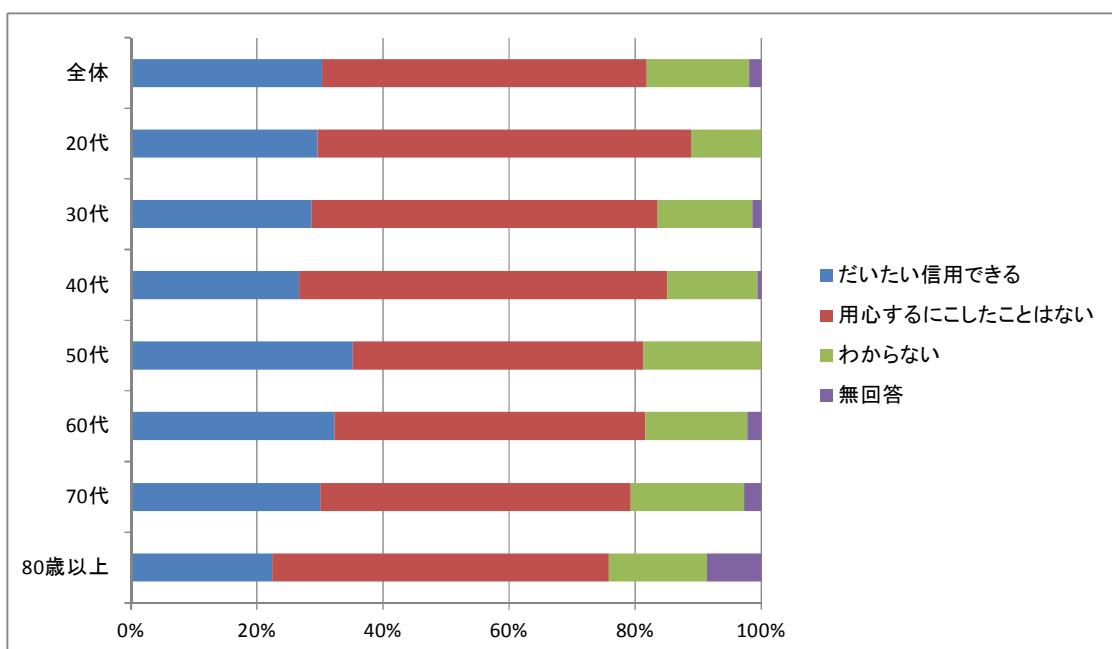
[問7]で、若年層にインターネット（以下、「ネット」と略す）の情報を役立ったと評価している人が多いことが明らかになったが、ネットはどのように使われているのであろうか。ネット上での選挙や政治についての意見交換の状況について質問した[問10]への回答をみると、全体集計では「よく／たまに意見交換をする」は2.1%しかなく、他人の意見を見るだけの人の9.9%を足しても12.0%に過ぎない。そもそもネットを利用しない人が最も多く43.6%もいる。その次に多いのが、「ネットは利用するが意見を書き込んだり見たりはない」の40.5%である。

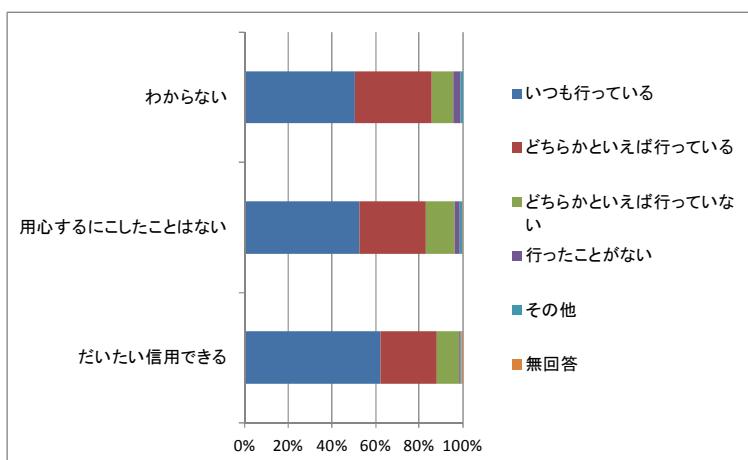
若年層については、ネット利用者は多いが（20代87.1%、30代85.0%）、選挙や政治についての意見を書き込んだり見たりする人はそれほど多くない（20代16.7%、30代22.9%）。たまたま見ていたチャンネルで選挙関係の報道に触れることがあるテレビなどと違って、自分からアクセスしないと情報を得られず、興味のある情報にしか接しない「選択的接触」のメカニズムが強くはたらくメディアといわれるネットの性格が表れているようである。

[問1]の投票参加状況の質問との関係をみると（2つめのグラフ）、意見交換をしている人に投票参加が多いというわけではない。むしろ、「ネットは利用しない」と回答した人の方が投票参加が多くなっている。これは、投票参加が多い40歳以上で「利用しない」という回答が多いいためである。若年層とそれ以外の年齢層で分けてグラフを作成してみると（3、4つめのグラフ）、若年層については、意見を書き込んだり他人の意見を見たりする人が、そうでない人よりも投票参加が多い。しかし、40歳以上の人については、そのような関係はなかった。

既存のマスメディアへの依存度が高い40歳以上の人々はともかく、ネットに情報源を依存する若年層については、選挙や政治に関する情報のネットでの受発信を促すことが投票参加につながる可能性がある。

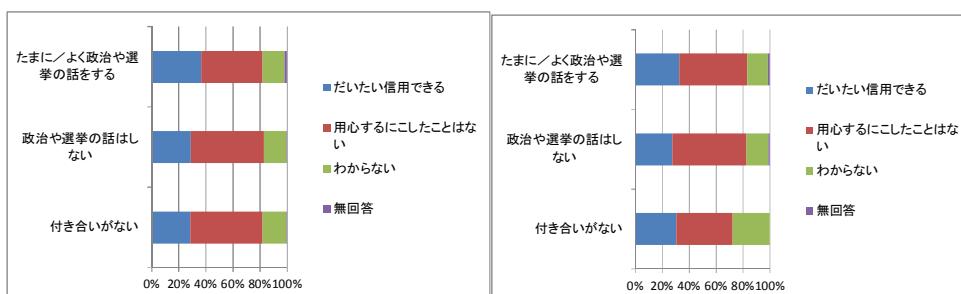
[市民アンケート：問11]一般的にいって、人はだいたいにおいて信用できると思いますか、それとも人と付き合うには用心するにこしたことはないと思いますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。





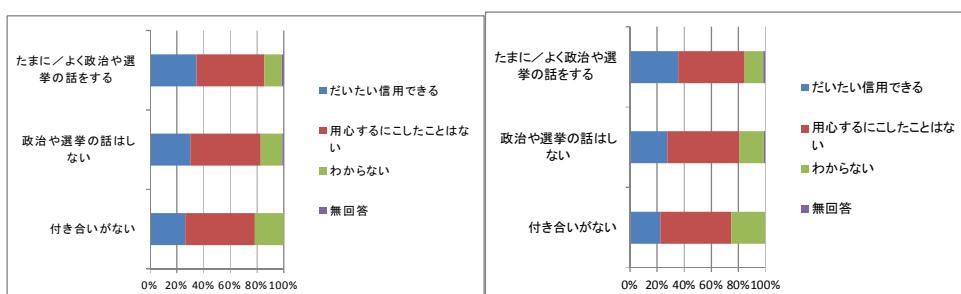
近所の人との会話と信頼

家族・親戚との会話と信頼

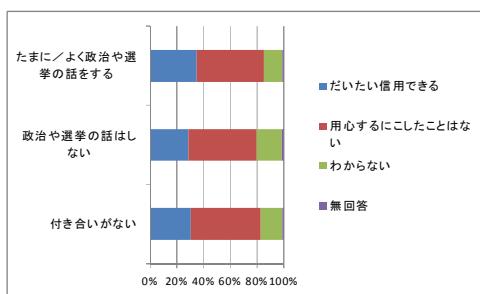


職場・学校の人との会話と信頼

友人・知人の会話と信頼



入っている団体の人（仕事関係の団体・労働組合・宗教団体・市民団体など）との会話と信頼



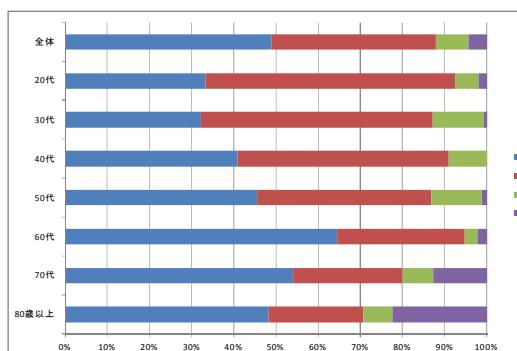
近年、「社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）」といわれる、社会的なつながりや、そこから生み出される他者への信頼が、候補者・政党や他の有権者への信頼につながって投票参加を促すという指摘があるが、他者への信頼について質問した[問11]については、全体集計では、「だいたい信用できる」30.4%、「用心するにこしたことはない」51.4%で、信用できないという回答の方が多かった。

年齢層別に見ると、「信用できる」は20代では29.6%、30代では28.6%と低めで、「用心するにこしたことはない」は20代59.3%、30代55.0%と高めになっている。

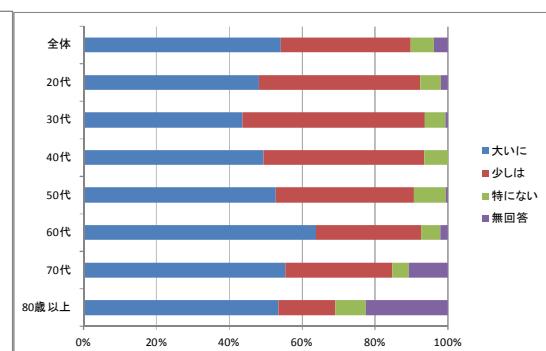
[問1]の投票参加状況との関係をみると（2つめのグラフ）、信用できると答えた人の投票参加の方が多かった。先の[問9]で、周囲の人と政治や選挙についての話をする人の方が投票参加が多いことが確認されたが、[問9]の会話の状況とこの[問11]の信頼感を掛け合わせてグラフを作成してみると（3つめ以降のグラフ）、周囲と話をする人の方が「信用できる」という回答が多いことがおおむね確認できるため、周囲の人とのつながりや会話によって他者への信頼感が増し、それが投票参加につながるという因果関係が考えられる。そうだとすれば、周囲の人との会話を促進して他者への信頼感を高めることが若年層の投票率向上につながるかもしれない。

[市民アンケート：問12]あなたは、次のものについて、どの程度、愛着をお持ちですか。
それぞれについて、当てはまる番号を1つ選んで下さい。

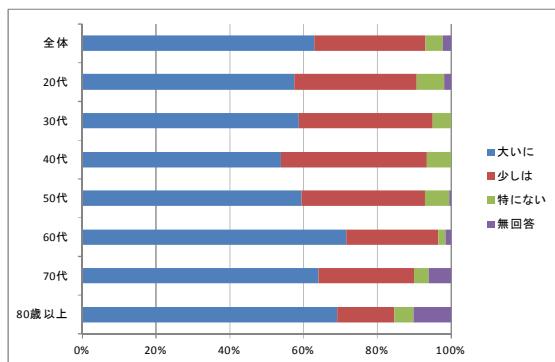
国への愛着



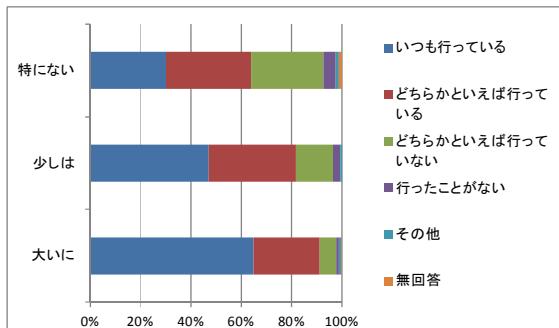
石川県への愛着



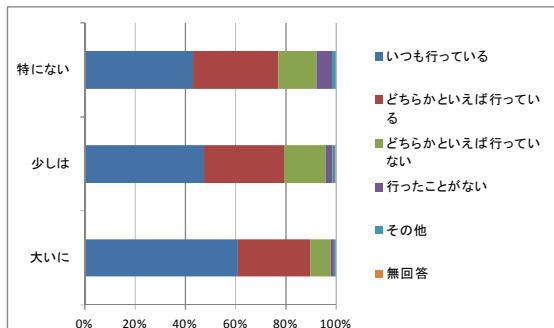
金沢市への愛着



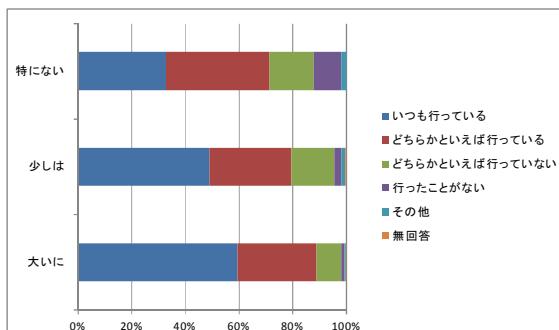
国への愛着と投票参加



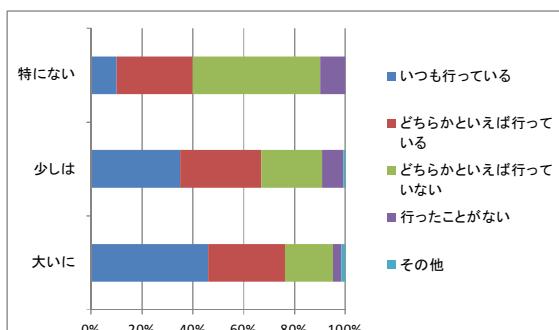
石川県への愛着と投票参加



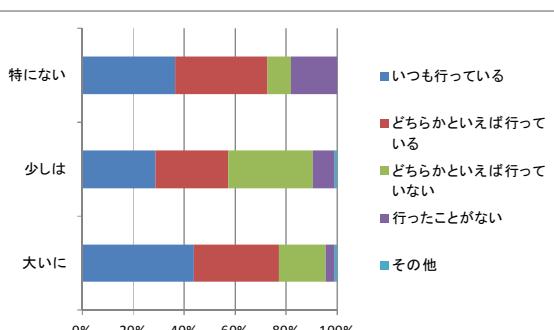
金沢市への愛着と投票参加



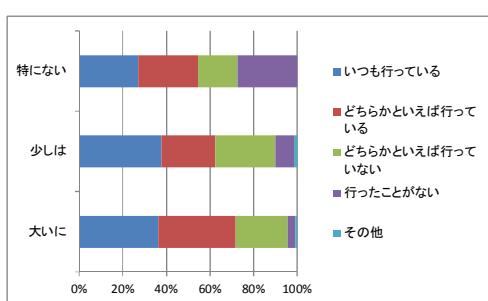
国への愛着と投票参加（若年層のみ）



石川県への愛着と投票参加（若年層のみ）



金沢市への愛着と投票参加（若年層のみ）



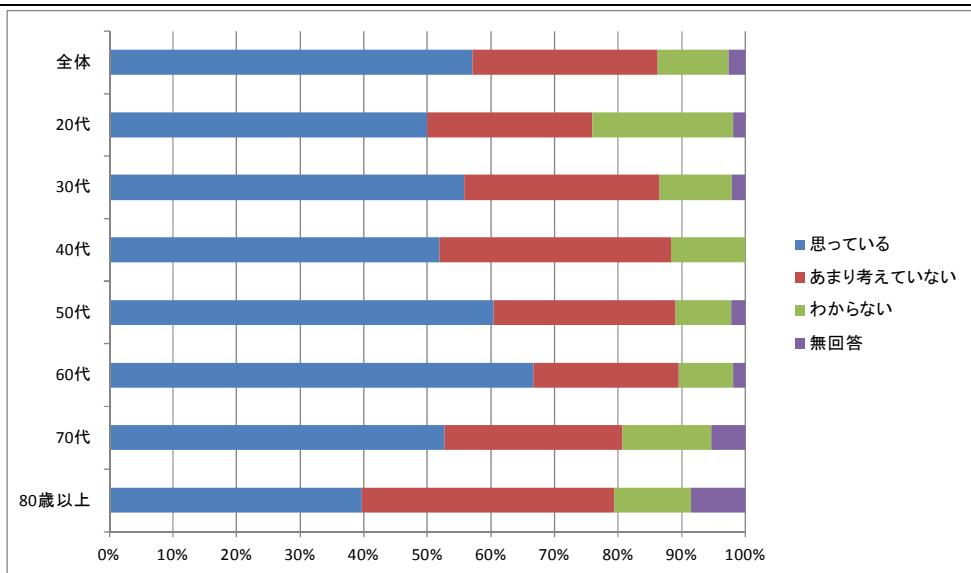
選挙の対象となっているコミュニティへの愛着が強いほど投票にも参加すると考えられるが、愛着感について質問した[問12]については、「大いに愛着」は国が48.9%、県が54.2%、市が62.9%であった。身近なコミュニティほど愛着を感じるようである。

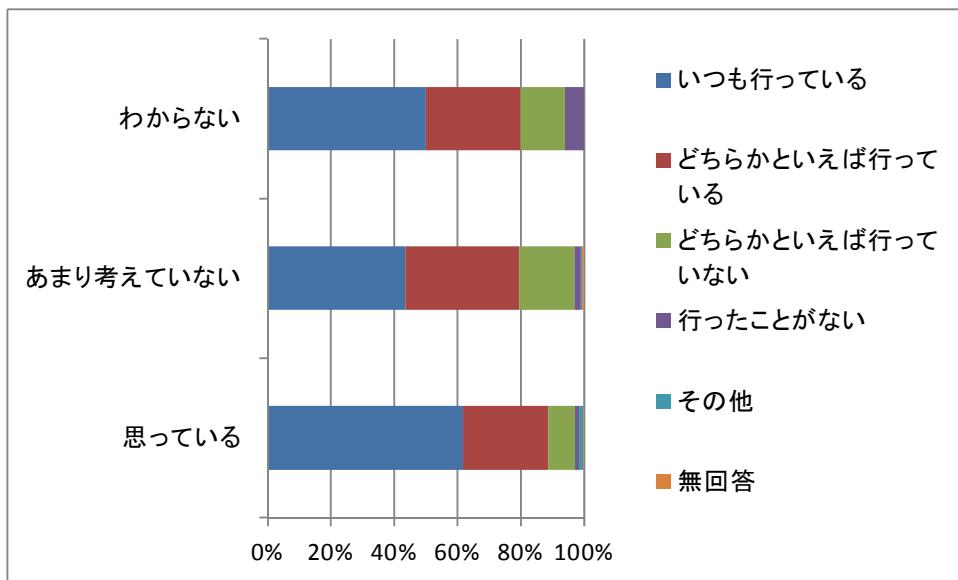
年齢層別にみると、若年層は低く、その後60代まで年齢が上がるほど愛着を持つ人が増えていくという傾向は国・県・市に共通している（前の3つのグラフ）。

[問1]の投票参加状況との関係をみると（中間の3つのグラフ）、いずれも、愛着が「特にない」から「少しある」、「大いに」へと移行するにつれて投票参加が多くなっている。愛着を持つ人が高年齢層に多いゆえに投票参加が多くなっている可能性も考えられるが、若年層だけでグラフを作成してみても（後の3つのグラフ）、愛着を持つ人の方が投票参加が多い傾向があるので、年齢の影響とは別に、愛着が投票参加を増す効果があることが分かる。

これらのコミュニティと自身の暮らしの関わりについて考える機会を提供するなどによってコミュニティに対する意識を高めることが、若年層の投票率向上に有効かもしれない。

[市民アンケート：問13]あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか、それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。



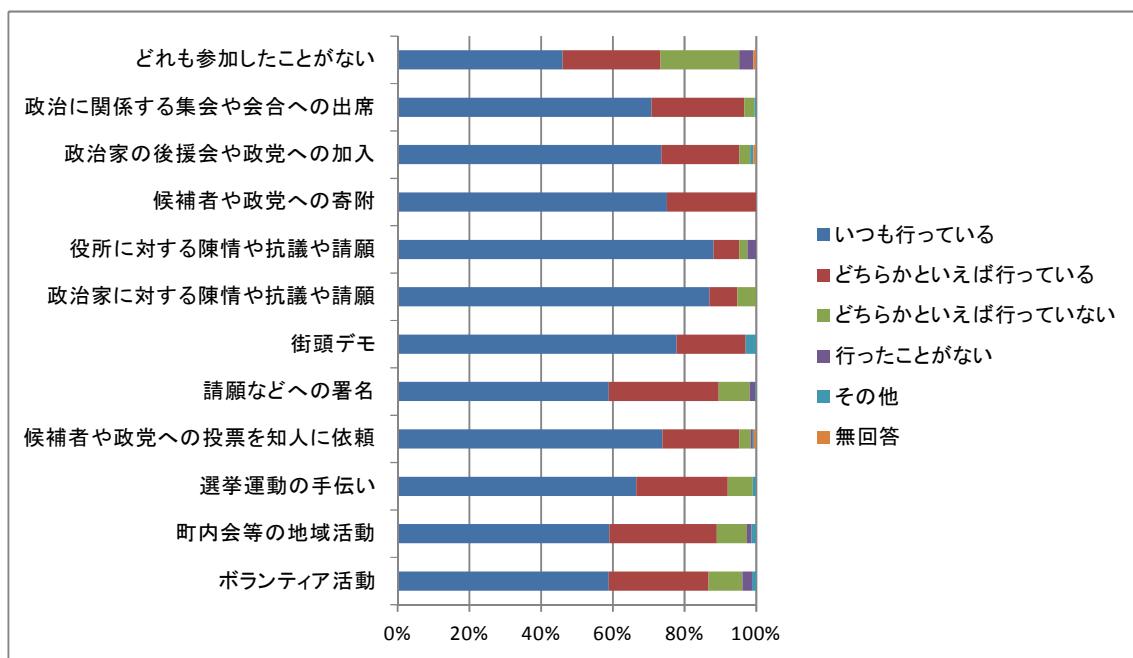
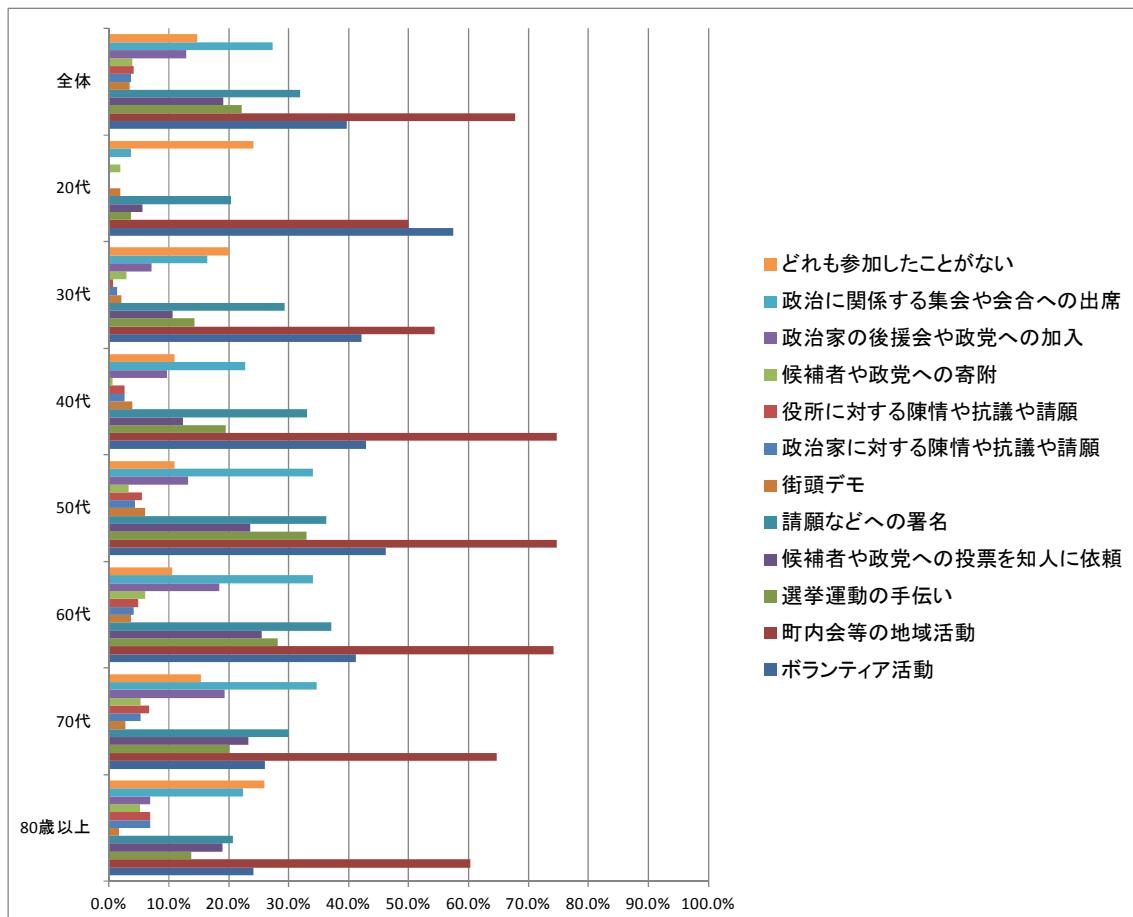


社会貢献の意欲について質問した[問13]については、全体集計では57.1%が「社会に役立ちたいと思っている」と回答し、「あまり考えていない」は29.1%であった。

[問12]の愛着心についての質問と同様に、社会貢献の意欲は若年層で低く、60代まで年齢が上がるほど増加していく傾向がある。

[問1]の投票参加状況との関係をみると（2つめのグラフ）、「社会に役立ちたい」と思っている人のうち、いつも投票を行っている人は61.6%で、あまり考えていない人の43.4%と大きな差があった。先の[問12]の分析でも述べたとおり、何らかの手段で若年層の社会に対する意識を高めることができれば、若年層の投票率向上につながるかもしれない。

[市民アンケート：問14]以下の活動について、参加した経験があるものがありますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。



次に、社会や政治に参加した経験について質問した[問14]については、全体集計では、「町内会等の地域活動」(67.8%) や「ボランティア活動」(39.7%) といった政治と直接関係のない活動への参加が多い。政治に関する活動では、「請願などへの署名」(31.9%) や「政治に関する集会や会合への出席」(27.3%) が比較的多い。

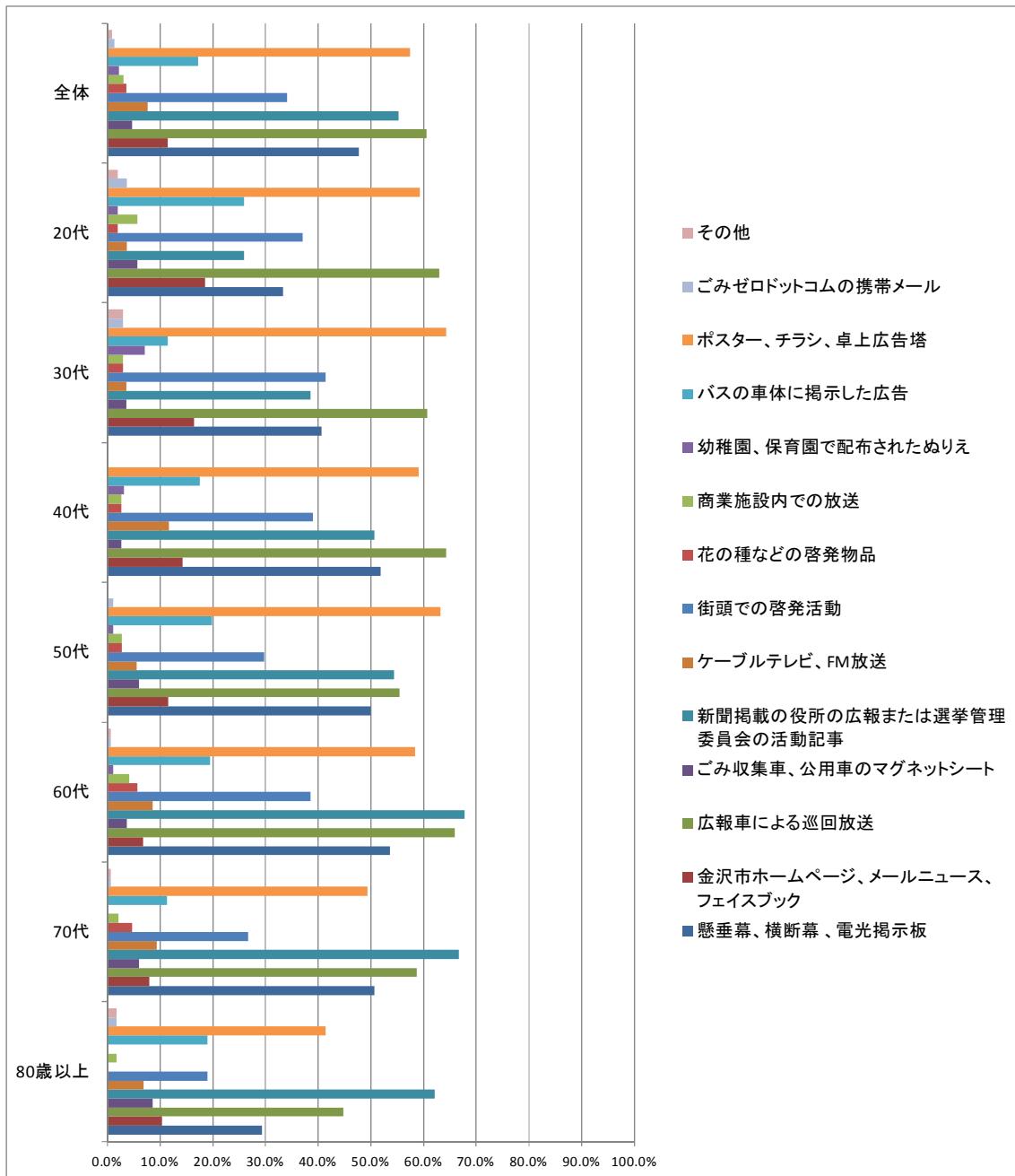
年齢層別にみると、若年層も「町内会等の地域活動」(20代 50.0%、30代 54.3%) や「請願などへの署名」(20代 20.4%、30代 29.3%) は多いが全体集計に比べると少ない。若年層に特に多いのは「どれも参加したことがない」(全体が 14.7%であるのに対して、20代 24.1%、30代 20.0%) と「ボランティア活動」(全体が 39.7%であるのに対して、20代 57.4%、30代 42.1%) である。

[問1]の投票参加状況との関係をみると（2つめのグラフ）、「投票にいつも行っている」と回答した人が最も少いのは、「どれも参加したことがない」で、「町内会等の地域活動」や「ボランティア活動」といった政治と直接関係のない活動も少なかった。政治に関する活動でも、本人の自発性をそれほど要しない「請願などへの署名」は投票参加が少なかった。

政治に関する活動に参加する人は、もともと政治への関心が高い人であろうから投票にも積極的に行くのはある意味当然である。むしろ、地域活動やボランティア活動のような政治と直接関係のない活動であっても、参加している人は、どれにも参加しない人よりも投票参加が多くなっていることに注目するべきかもしれない。

これらの活動に参加する人は、もともと社会に対する意識が高く、投票にも参加する傾向がある、ということもあるだろうが、逆に、これらの活動に参加することによって、社会に対する意識が高められ、投票参加につながるということも考えられる。そうだとすれば、若年層の社会参加活動を支援することによって、若年層の社会に対する意識が高まれば、投票率向上につながるかもしれない。

[市民アンケート：問15]選挙管理委員会ではさまざまな方法で、選挙の広報をしていますが、以下のうちで、あなたが見たり聞いたりしたものがありますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。



選挙管理委員会の広報への接触について質問した[問15]については、全体集計では、多い順に「広報車による巡回放送」(60.6%)、「ポスター、チラシ、卓上広告塔」(57.4%)、「新聞掲載の役所の広報または選挙管理委員会の活動記事」(55.3%)、「懸垂幕、横断幕、電光

掲示板」(47.7%)、「街頭での啓発活動」(34.1%)、などとなっていた。

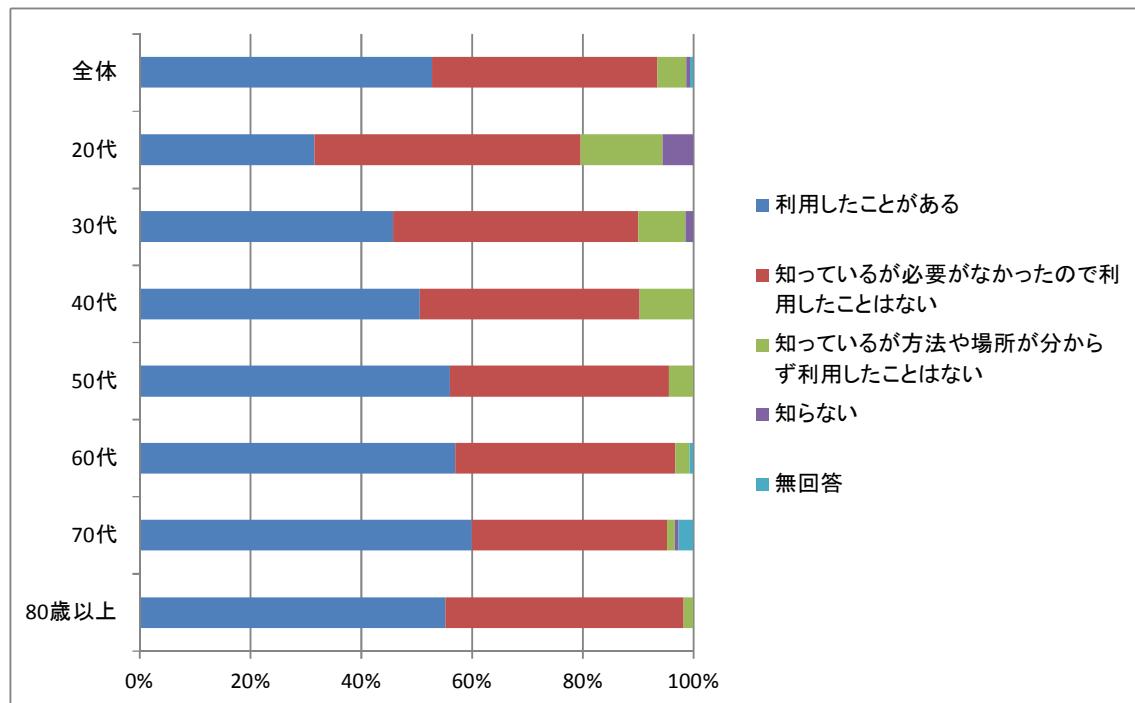
年齢層別に見ると、若年層も「広報車による巡回放送」や「ポスター、チラシ、卓上広告塔」が1、2位を占めているが、若年層が全体に比べて多かったものとしては、「金沢市ホームページ、メールニュース、フェイスブック」(全体 11.4%に対して、20代 18.5%、30代 16.4%)、「街頭での啓発活動」(全体 34.1%に対して、20代 37.0%、30代 41.4%)、「ごみゼロドットコムの携帯メール」(全体 1.3%に対して、20代 3.7%、30代 2.9%)、が挙げられる。

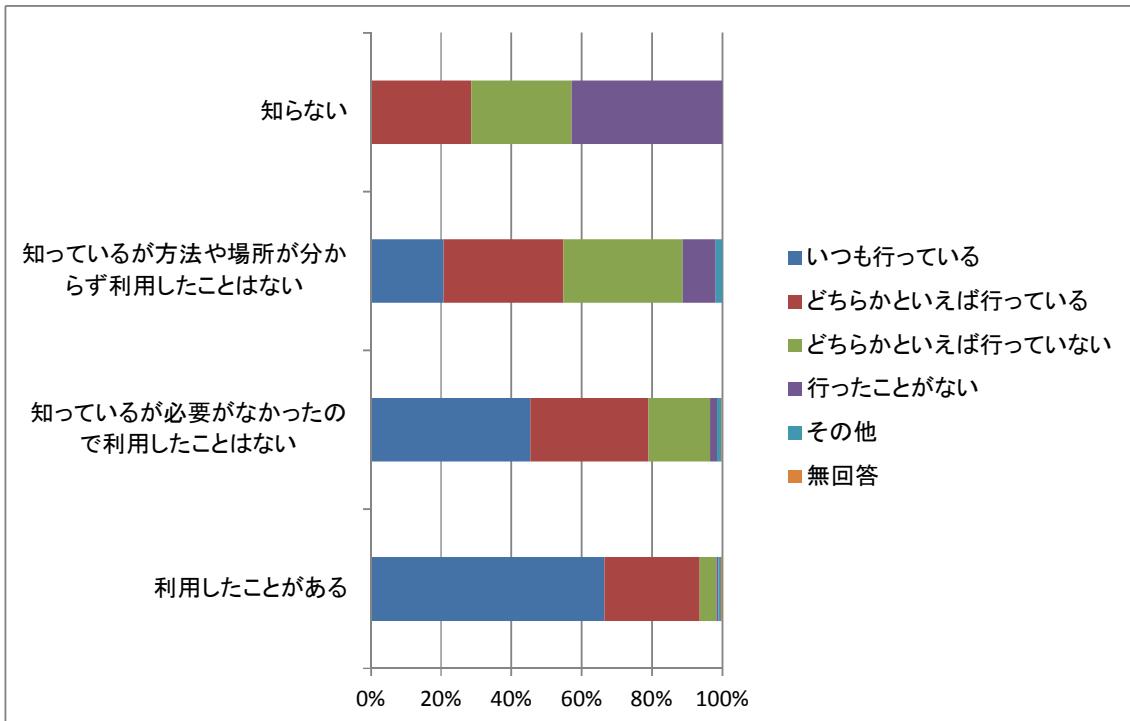
逆に、若年層が全体に比べて少ないのは、「新聞掲載の役所の広報または選挙管理委員会の活動記事」(全体 55.3%に対して、20代 25.9%、30代 38.6%)、「懸垂幕、横断幕、電光掲示板」(全体 47.7%に対して、20代 33.3%、30代 40.7%)、「ケーブルテレビ、FM放送」

(全体 7.6%に対して、20代 3.7%、30代 3.6%)、「花の種などの啓発物品」(全体 3.6%に対して、20代 1.9%、30代 2.9%)、であった。

インターネットをよく利用する反面、新聞を購読しないなど若年層のメディア環境が、選挙管理委員会の広報への接触に影響を与えていたようである。

[市民アンケート：問16] 当日に投票に行けない方のための制度の「期日前投票制度」をご存知ですか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。





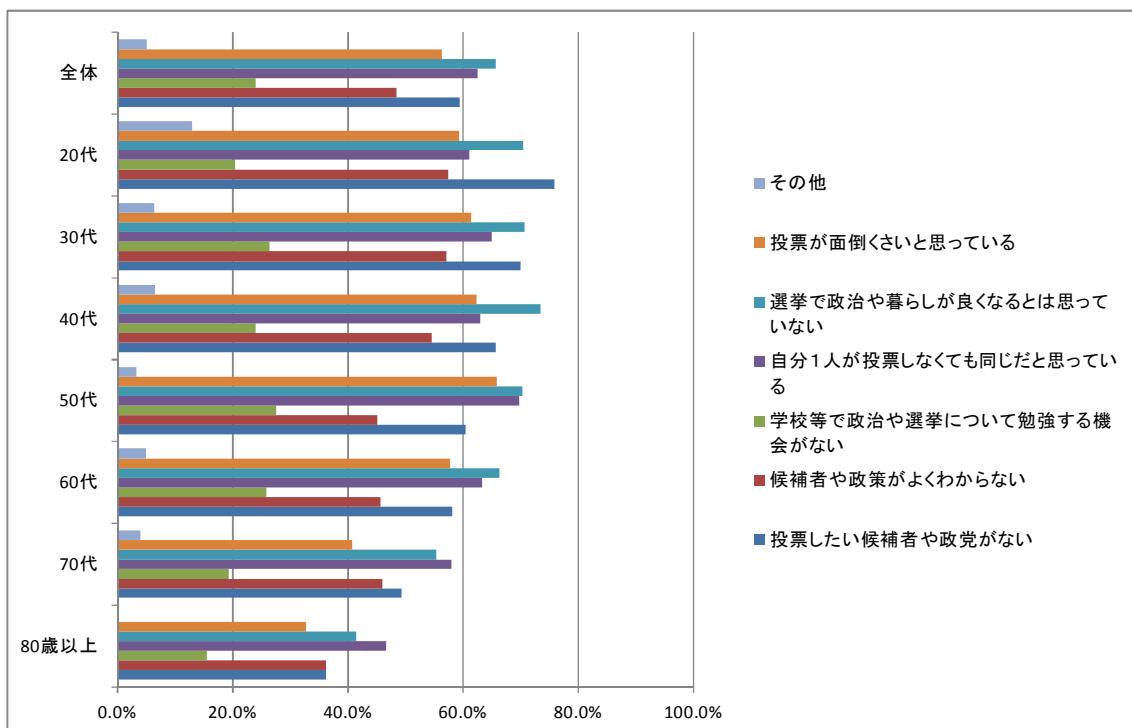
期日前投票制度について質問した[問16]については、制度自体を「知らない」というのは、わずか0.7%であり、「利用したことがある」は52.8%であった。

年齢層別に見ると、若年層でも制度自体を知らないという人は少ない(20代5.6%、30代1.4%)。しかし、制度自体は知っているが「方法や場所が分からず利用したことはない」が、全体5.2%に対して、20代14.8%、30代8.6%で、他の年齢層に比べて多い。

[問1]の投票参加状況との関係をみると(2つめのグラフ)、制度自体は知っているが「方法や場所が分からず利用したことはない」と答える人のうち、「いつも投票に行っている」と答える人は20.8%しかおらず、「利用したことがある」と答えた人(66.5%)や、「知っているが必要がなかったので利用したことはない」と答えた人(45.4%)に比べて投票参加がかなり少ない。

期日前投票の具体的な方法や場所についての広報にさらに力を入れることによって、若年層の投票参加をある程度向上させることができることが出来るかもしれない。

[市民アンケート：問17]現在、特に若年層を中心として投票率が低下しているといわれていますが、その原因は何だとお考えですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。



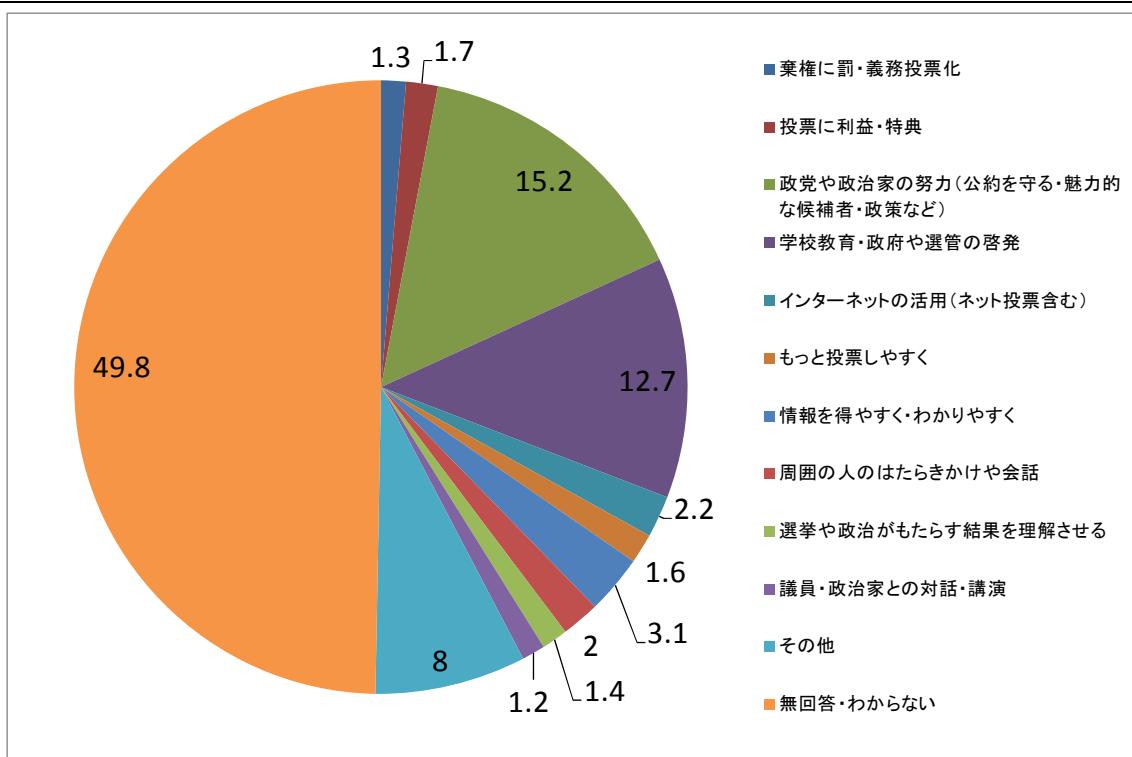
若年層の投票率低下の原因について質問した[問17]については、全体集計では、「選挙で政治や暮らしが良くなるとは思っていない」が 65.6%で最も多く、以下、「自分1人が投票しなくても同じだと思っている」(62.5%)、「投票したい候補者や政党がない」(59.4%)、「投票が面倒くさいと思っている」(56.3%)、「候補者や政策がよくわからない」(48.4%)、「学校等で政治や選挙について勉強する機会がない」(24.0%)、となっている。

若年層自身の回答で全体よりも顕著に多かったのは、「投票したい候補者や政党がない」(全体 59.4%に対して、20代 75.9%、30代 70.0%)、「候補者や政策がよくわからない」(全体 48.4%に対して、20代 57.4%、30代 57.1%)、「選挙で政治や暮らしが良くなるとは思っていない」(全体 65.6%に対して、20代 70.4%、30代 70.7%)、であった。

若年層自身の見立てが正しいとすれば、候補者や政党の公約の違いについて若年層にもっと情報を伝えることによって、投票したい対象が出てきたり、選挙結果が暮らしにもたらす影響についての認識が高まり、投票参加につながるかもしれない。

また、「学校等で勉強する機会がない」という回答が、全体集計でも、若年層の集計でも最も少なくなっているが、選挙について勉強する機会を増やしても、これまでの内容のままでは投票率向上に有効ではない、と考えられているようだ。

[市民アンケート：問 18]若年層に選挙に関心をもってもらうためには、どのようなことをすれば効果があると思いますか。ご自由にお書きください。



若年層に選挙に関心を持ってもらう方策について質問した[問 18]への回答を、主要カテゴリーに分類して集計した。いずれのカテゴリーにも該当しない少数意見は「その他」とした。2つ以上の事項について記述があるものは、冒頭で記述されているものをより重視しているとみなして集計した。

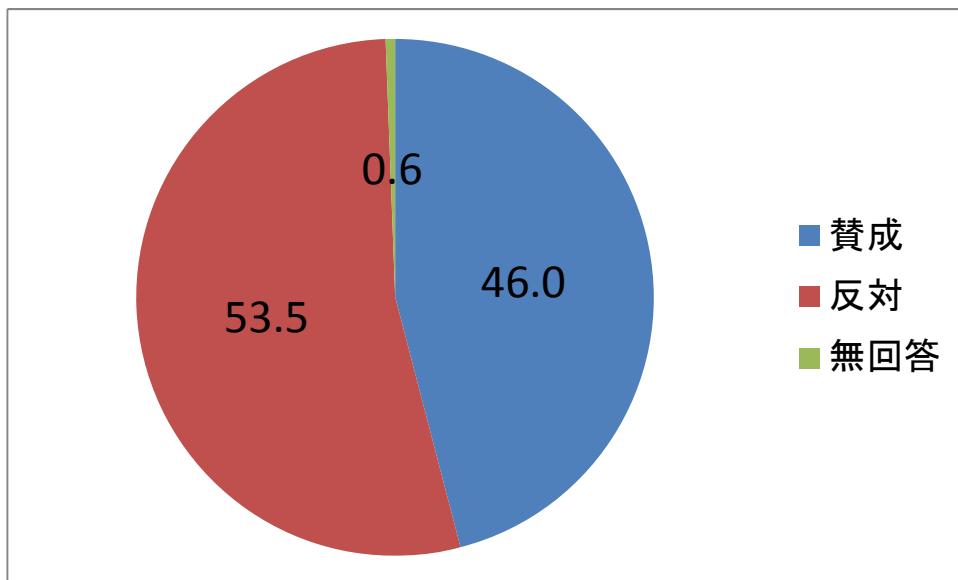
公約を守ったり魅力的な候補者や政策を出すなどの「政党や政治家の努力」(15.2%)と、「学校教育や政府や選挙管理委員会による選挙啓発」(12.7%)が特に多かったが、他には、「選挙に関する情報をもっと得やすく・分かりやすく」(3.1%)、「賞罰」(罰 1.3%+賞 1.7%=3.0%)、ネットによる選挙情報の受発信やネット投票など「インターネットの活用」(2.2%)、「家族など周囲の人のはたらきかけや会話」(2.0%)、「投票所を増やすなどもっと投票しやすくする」(1.6%)、投票に行かないことによってどのような損害を被るかなど「選挙や政治がもたらす結果を理解させる」(1.4%)、政治の現実に触れる機会をつくり興味を持たせるため「議員・政治家と対話したり講演を聞く」(1.2%)、などの回答があった。

政党や政治家の努力を待たなければいけないものについては早急な改善は難しいが、学校での政治に関する授業で議員・候補者を招くなど政治の現実に触れるような内容を取り入れたり、家庭や職場や学校で選挙に関する会話が促進されるような工夫をしたり、候補者や政党の公約の違いや選挙がもたらす結果などの情報をインターネットなども使ってわかりやすく伝える、などは可能であろう。

IV 大学生アンケートの回答の概要

これ以降は、若年層の中でも特に投票率の低い大学生を対象にしたアンケートの集計結果を、市民アンケートの 20 代の集計結果との比較を中心に検討していく。

[大学生アンケート：問 1] 現在、選挙権は 20 歳以上の人々がもっていますが、これを 18 歳に引き下げようという意見があります。あなたは、選挙権を 18 歳に引き下げるに賛成ですか。反対ですか。当てはまる番号を 1 つ選び、その理由も書いて下さい。

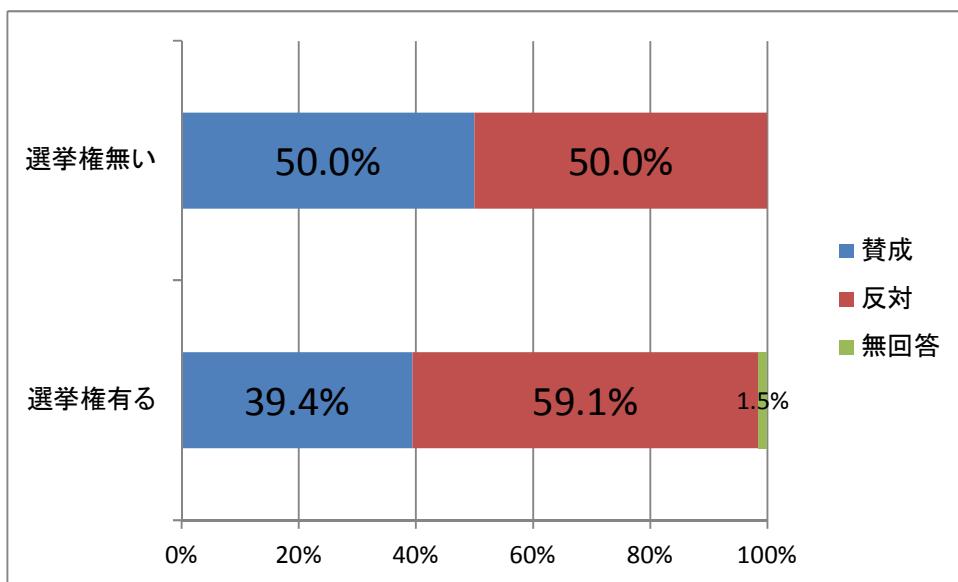
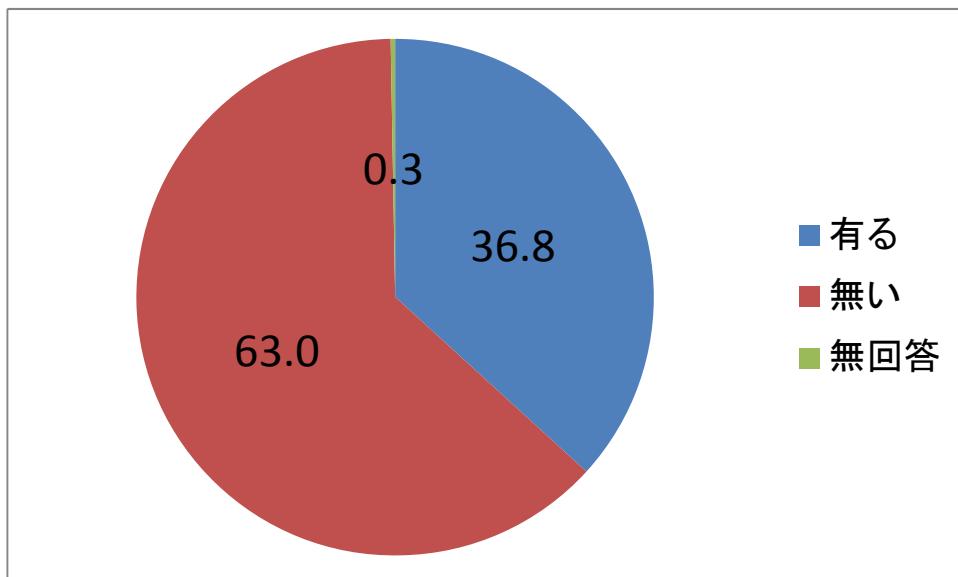


選挙権年齢の 18 歳への引き下げについての[問 1]では、賛成 46.0%、反対 53.5%で、反対の方がやや多かった。

賛成の理由としては、「18 歳と 20 歳で判断能力や意識にそれほど違いがない」「18 歳から 20 歳までの人の選挙や政治への関心が高まる」「18 歳から就職して納税する人もいる」「若い年齢層の意見をもっと反映させるべき」「多くの国で 18 歳で選挙権を与えているから」などが挙げられていた。

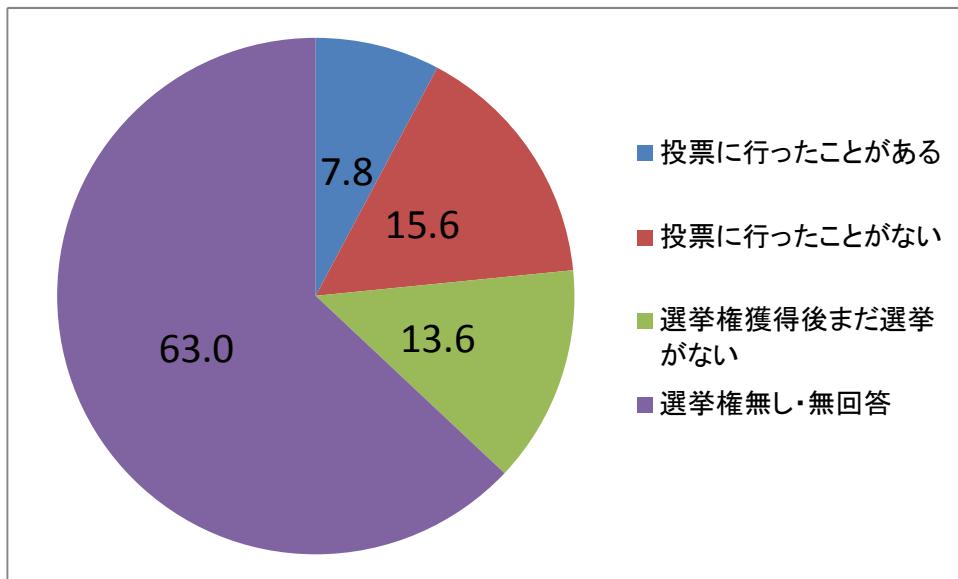
反対の理由としては、「18 歳ではまだ判断能力や関心がない」「受験など自分のことで精一杯で社会のことを考える余裕がない」「飲酒やタバコ等の他の年齢制限との関係でおかしなことになる」などが挙げられていた。

[大学生アンケート：問2]あなたは現在、選挙権がありますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。



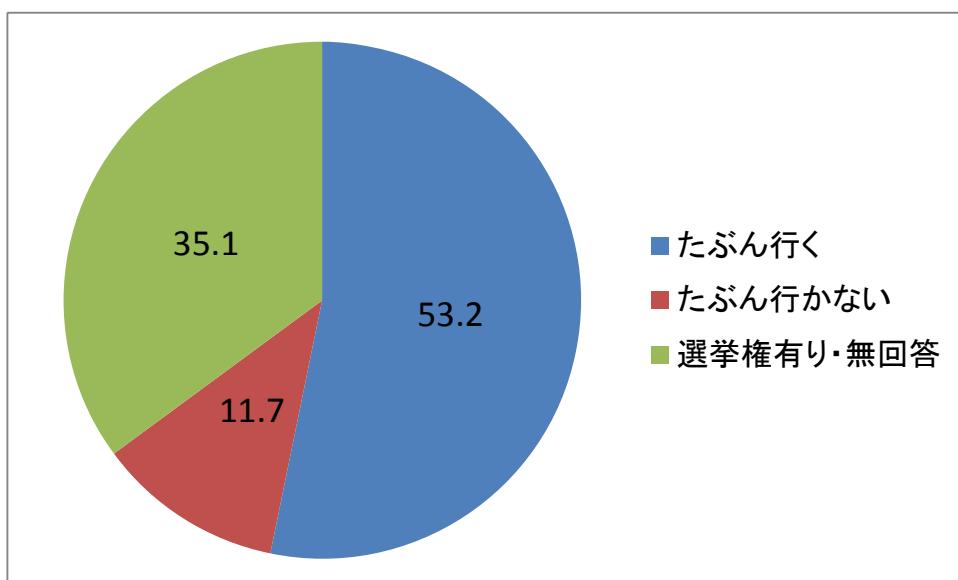
選挙権の有無について質問した[問2]については、1、2年生も多く回答者に含まれていたため、「無い」が63.0%で多かった。選挙権の有無別に[問1]の選挙権年齢引き下げへの賛否をみると（2つめのグラフ）、選挙権を有している回答者の方が反対が多かった。「現在20歳を超えている自分を省みてもまだ未熟なのに18歳で選挙権を与えるのは早すぎる」という意見が、[問1]の選挙権年齢引き下げに反対する理由についての回答にあったが、そのような理由であろうか。

[大学生アンケート：問3]（選挙権が有る場合にお答え下さい）過去に投票に行ったことがありますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。



選挙権を有している回答者に、過去の投票経験を聞いたところ、選挙権獲得後まだ選挙がないケースを除くと、「投票に行ったことがある」という回答は、「行ったことがない」という回答の半分でしかなかった。

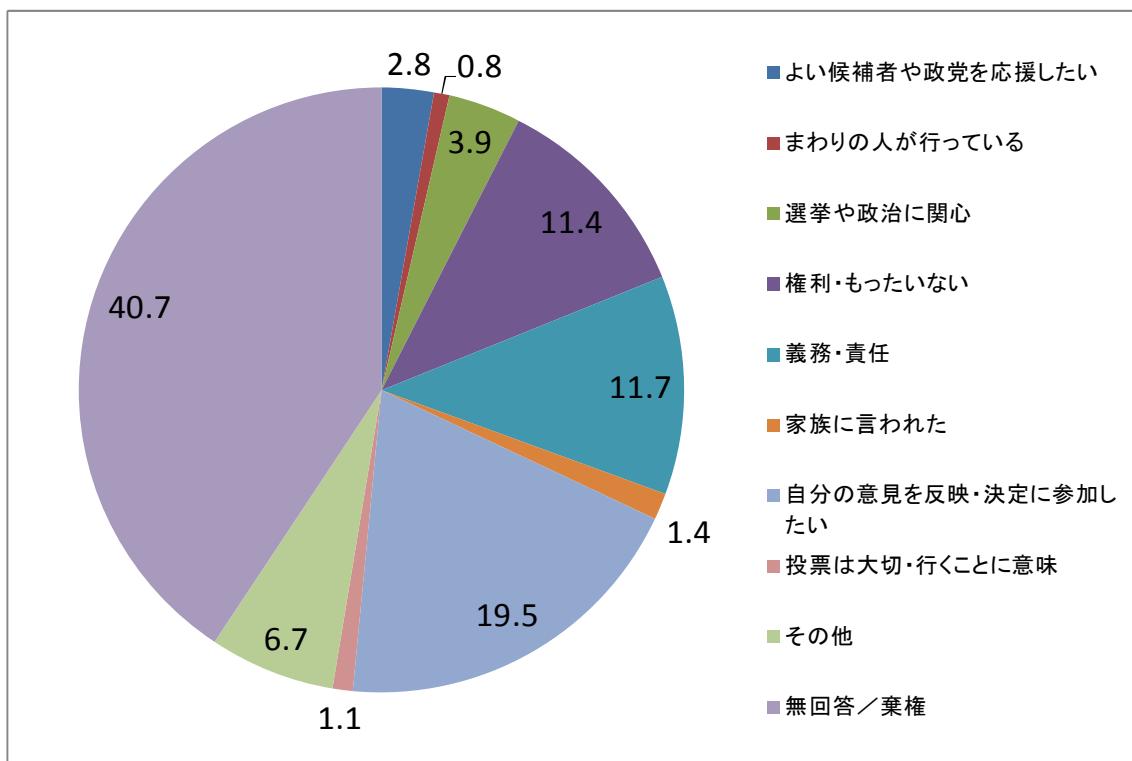
[大学生アンケート：問4]（選挙権が無い場合にお答え下さい）もし現在、選挙権があれば投票に行きますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。



選挙権が無い回答者について、もし現在、選挙権があれば投票に行くかを質問したところ、

「たぶん行く」という回答が、「たぶん行かない」という回答の5倍近くあった。[問3]とのギャップが大きいが、選挙権を得る前は投票してみたいと思っていても、選挙権を得て実際に投票する段階になると他の用事を優先してしまったりして行かない、あるいは、住民登録が現住所に無いなどの障害により行けないのであろうか。

[大学生アンケート：問5]（「投票に行ったことがある」あるいは「選挙権があればたぶん行く」を選択した場合にお答え下さい）その理由はなぜですか。ご自由にお書きください。

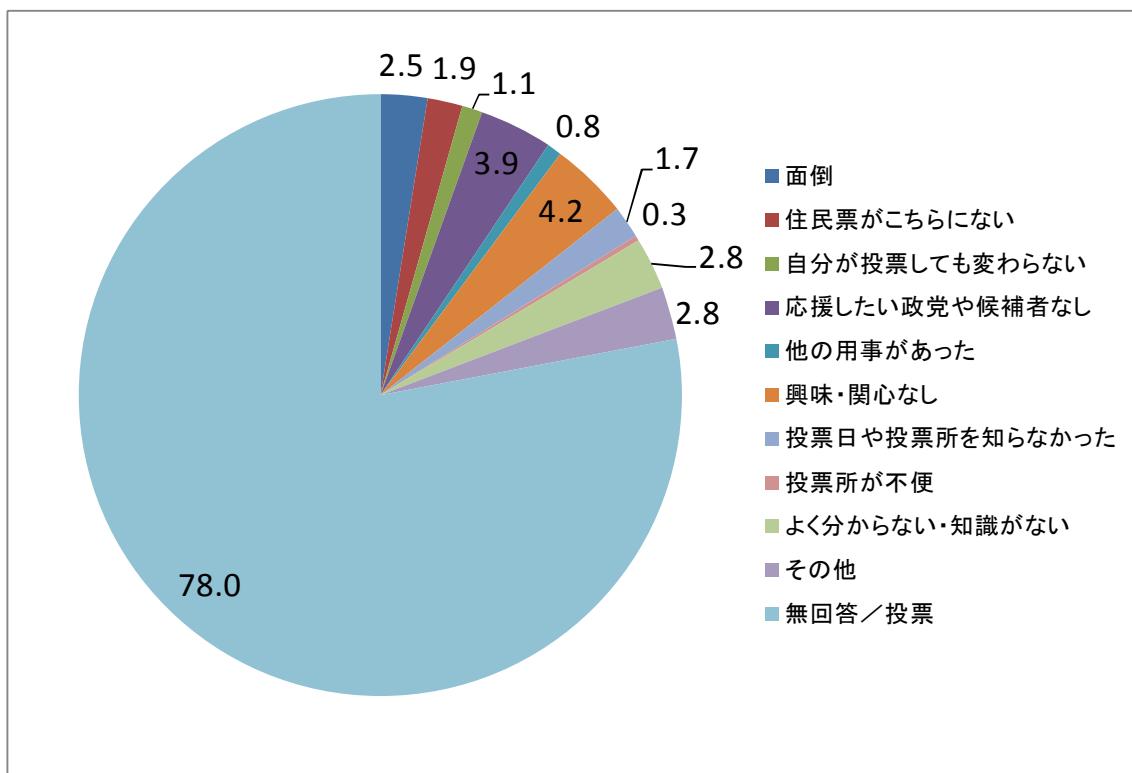


投票に行った／行く理由についての自由記述を主要カテゴリーに分類して集計した。いずれのカテゴリーにも該当しない少数意見は「その他」とした。2つ以上の事項について記述があるものは、冒頭で記述されているものをより重視しているとみなして集計した。

最も多いかったのが「自分の意見を反映させたい・決定に参加したい」(19.5%)で、「投票は義務・投票する責任がある」(11.7%)と「投票は権利・投票しないのはもったいない」(11.4%)も多かった。その他には、「選挙や政治に興味・関心がある」(3.9%)、「よい候補者や政党を応援したい」(2.8%)、「家族に言わされた」(1.4%)、「投票は大切・行くことに意味がある」(1.1%)、「家族など周りの人が行っているから」(0.8%)、などの回答があった。

応援したい候補者や政党があるなど選挙の中身への関心からというよりも、参加することの意義や権利／義務だからといった選挙自体の重要性から投票する人が多いようである。

[大学生アンケート：問6]（「投票に行ったことがない」あるいは「選挙権があってもたぶん行かない」を選択した場合にお答え下さい）その理由はなぜですか。ご自由にお書きください。

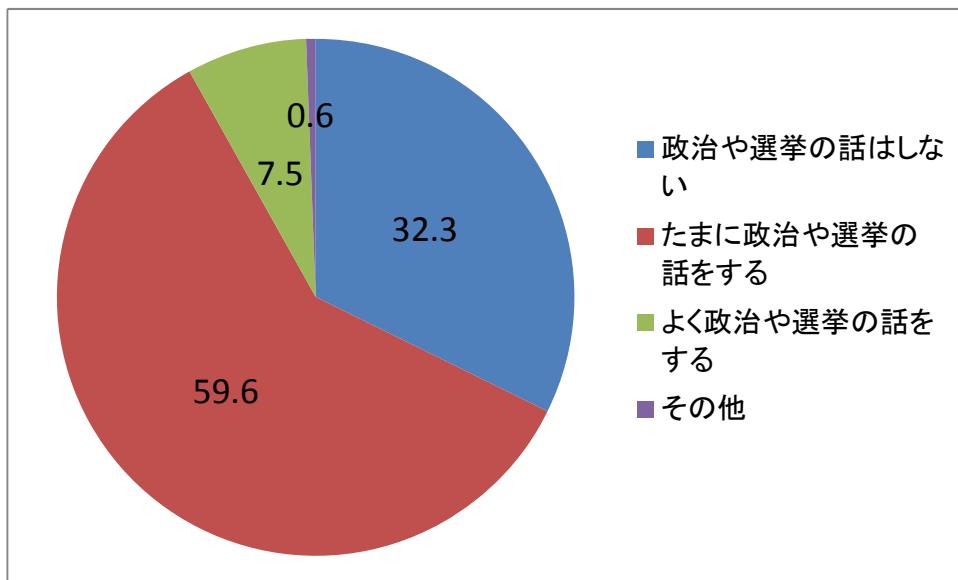


棄権した／棄権する理由についての自由記述を主要カテゴリーに分類して集計した。いずれのカテゴリーにも該当しない少数意見は「その他」とした。2つ以上の事項について記述があるものは、冒頭で記述されているものをより重視しているとみなして集計した。

回答者が 79 人と少なく、誤差が多いと考えられるので注意して分析する必要があるが、多かった順に、「興味・関心なし」(4.2%・15人)、「応援したい政党や候補者なし」(3.9%・14人)、「よく分からぬ・知識がない」(2.8%・10人)、「面倒」(2.5%・9人)、「住民登録がこちらにない」(1.9%・7人)、「投票日や投票所を知らなかった」(1.7%・6人)、「自分が投票しても変わらない」(1.1%・4人)、「他の用事があった」(0.8%・3人)、「投票所が不便」(0.3%・1人)、などの回答があった。

市民アンケートの分析で述べたように、候補者や政党の公約の違いなど選挙の中身に関する情報をわかりやすく伝えることにより、応援したい政党や候補者が出てくるなどで選挙に関心を持ち、投票参加につながる可能性がある。また、投票日や投票所についてのさらなる周知や、自宅生以外の大学生について現住所での住民登録を促すことも有効かもしれない。

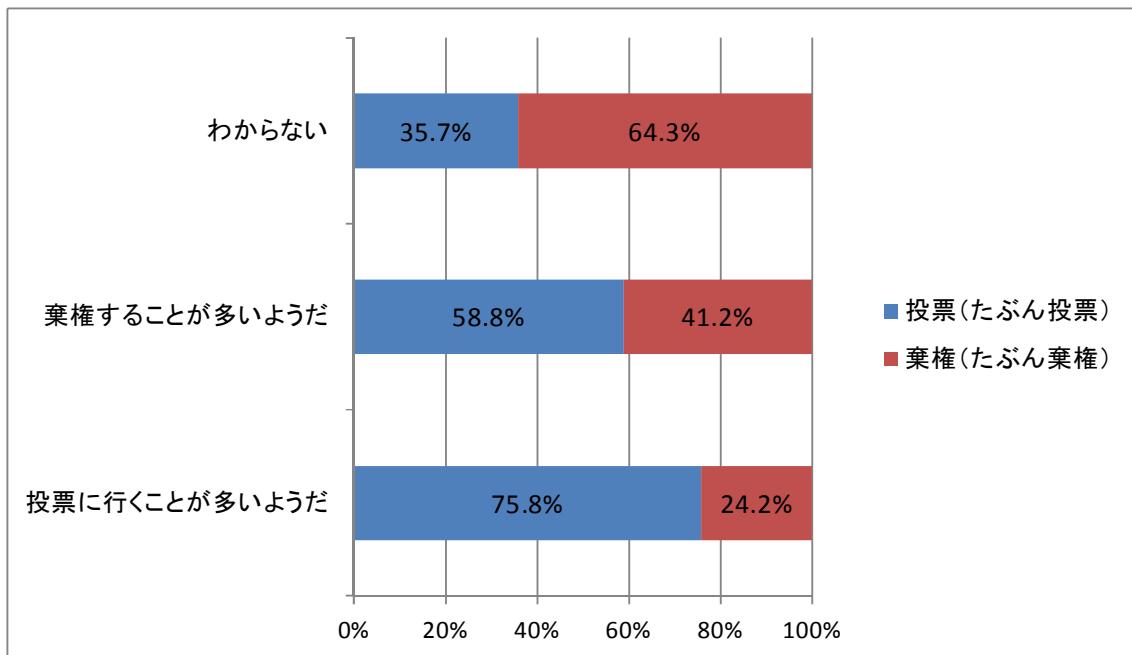
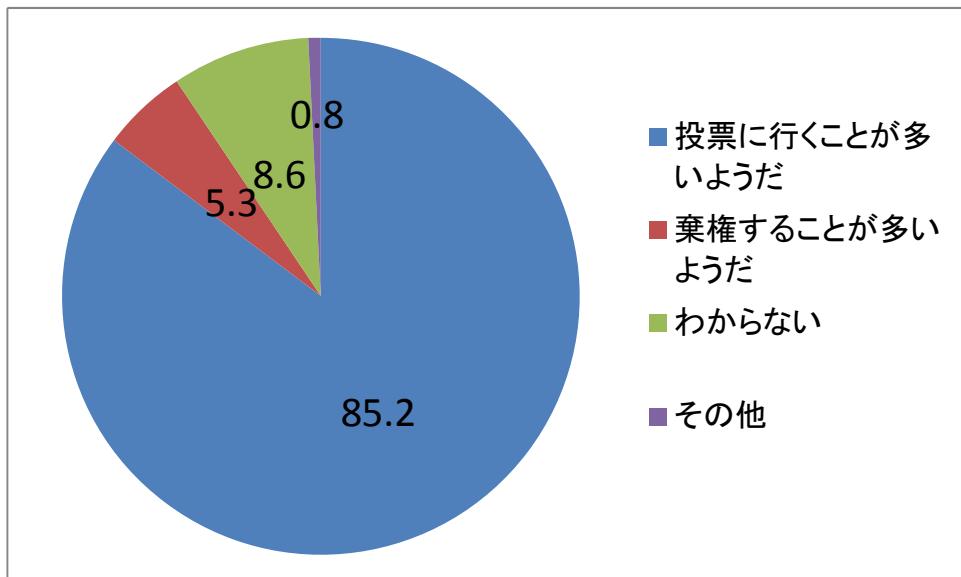
[大学生アンケート：問7]家族と政治や選挙の話をすることがありますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。



家族と政治や選挙の話をすることがあるかについて質問すると、「よく」と「たまに」という回答をあわせると 67.1% であった。

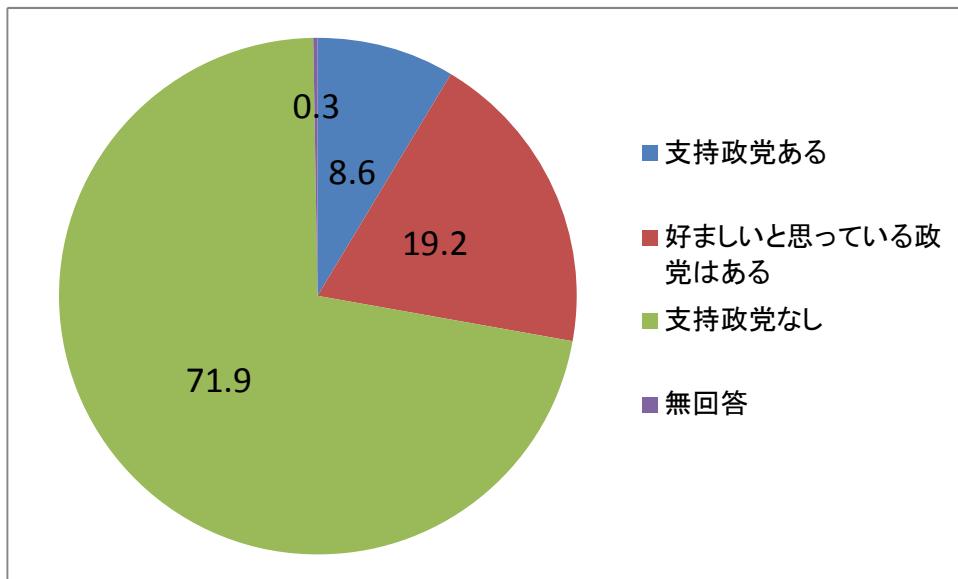
「家族・親戚」との政治や選挙の話について質問した[市民アンケート：問9]では、「よく」と「たまに」をあわせると 20代は 46.3% であったが、他の若年層に比べて大学生は家族と政治や選挙の話を比較的よくしているようである。このことは大学生の投票参加を高めるように作用すると考えられる。

[大学生アンケート：問8]あなたの親は、投票に行ってらっしゃいますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。



親の投票参加状況について質問すると、「投票に行くことが多いようだ」が85.2%で圧倒的に多い。この回答と、先の[問3]と[問4]への回答にみる本人の投票参加の関係をみると（2つめのグラフ）、親が「投票に行くことが多いようだ」と回答した人の投票参加は75.8%で、「棄権することが多いようだ」の58.8%よりもかなり多い。投票参加について親の影響が大きいようだ。

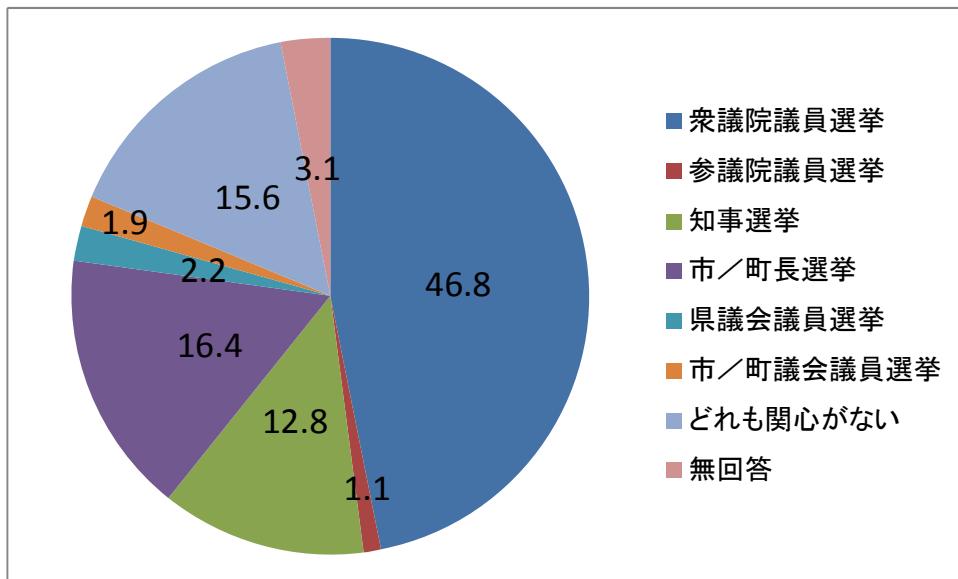
[大学生アンケート：問9]ふだん支持している政党がありますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。



支持政党の有無について質問した[問9]については、「支持政党がある」に「好ましいと思っている政党はある」という回答をあわせると 27.8% であった。

同じ質問の[市民アンケート：問8]では、20代の回答は 18.5% であり、他の若年層に比べて大学生は支持政党を持っている人が多い。ただし、政治学の授業で行ったアンケートであるため、もともと政治に関心があったり、授業で政治を学ぶことにより政党に関心を持った、という可能性も考えられる。

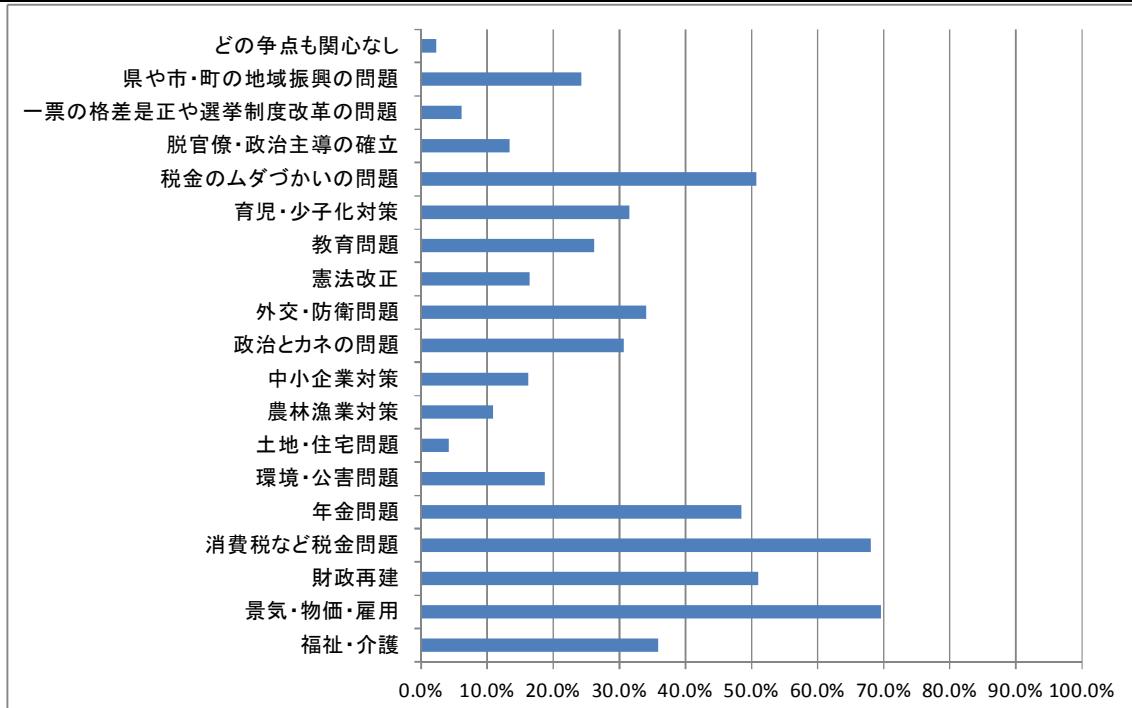
[大学生アンケート：問10]投票に行っているかどうかは別として、あなたは、どの選挙に
もっとも関心がありますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。



どの選挙に関心があるかについて質問した[問10]については、衆議院選挙に关心を持つ人が最も多いことや、議会よりも首長選挙の方に关心を持っている人が多いことなどは、同じ質問の[市民アンケート：問5]の集計結果と共通している。

「どれも関心がない」は、市民アンケートの20代は27.8%であったのに対して15.6%であり、他の若年層に比べて大学生の選挙への関心は高いようである。

[大学生アンケート：問11]投票に行っているかどうかは別として、あなたはどのような選挙の争点に関心がありますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。



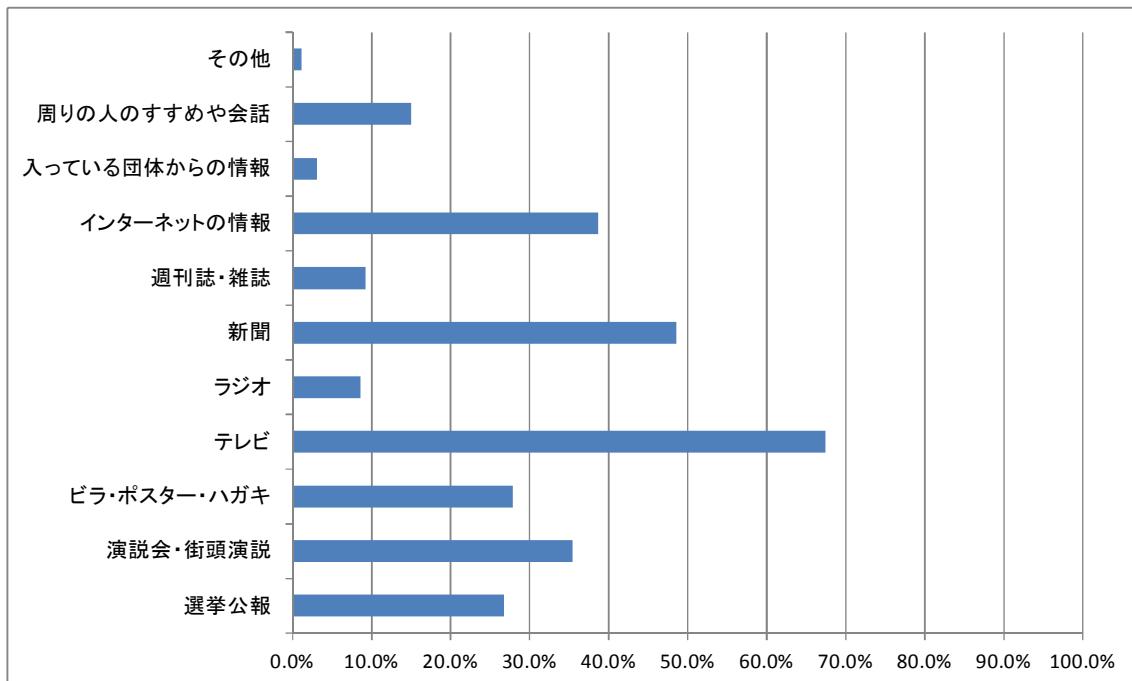
どのような選挙の争点に関心があるかを複数回答可で質問した[問11]については、「景気・物価・雇用」(69.6%)「消費税など税金問題」(68.0%)「財政再建」(51.0%)「税金のムダづかいの問題」(50.7%)「年金問題」(48.5%)、などが多かった。同じ質問の[市民アンケート：問6]の全体集計の上位5位と比べると、「福祉・介護」がなく「財政再建」が入っている点で異なる。

市民アンケートの20代の回答と比較すると、10%以上少なかったのは、「育児・少子化対策」(市民アンケートの20代 61.1%、大学生アンケート 31.5%)と「福祉・介護」(市民アンケートの20代 59.3%、大学生アンケート 35.9%)であった。

逆に10%以上多かったのは、「財政再建」(市民アンケートの20代 37.0%、大学生アンケート 51.0%)であった。

大学生は、市民アンケートの20代と比べて若いため育児や介護にたずさわっている人が少ないことや、授業で財政について学んでいることなどの影響であろうか。

[大学生アンケート：問12]投票に行っているかどうかは別として、選挙の際に役立つていると思うものは何ですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。



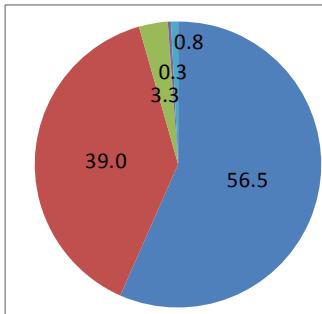
選挙の際に役立つていると思うメディアについて質問した[問12]については、同じ質問の[市民アンケート：問7]の20代の集計結果と同様、テレビ、新聞に次いでインターネットが多い(38.7%)。しかし、市民アンケートの20代の回答では22.2%で多かった「周りの人のすすめや会話」が、大学生アンケートでは少なく、15.0%であった。「入っている団体からの情報」も、市民アンケートの20代が13.0%であったのに対して、大学生アンケートは3.1%であり、かなり少ない。

逆に、市民アンケートの20代より大学生の回答が10%以上多かったものは、「演説会・街頭演説」(市民アンケートの20代20.4%、大学生アンケート35.4%)、「ビラ・ポスター・ハガキ」(市民アンケートの20代16.7%、大学生アンケート27.9%)、「テレビ」(市民アンケートの20代42.6%、大学生アンケート67.4%)、「新聞」(市民アンケートの20代25.9%、大学生アンケート48.5%)、「インターネットの情報」(市民アンケートの20代24.1%、大学生アンケート38.7%)、である。

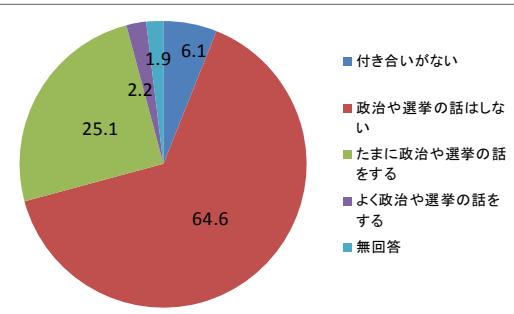
学生は、仕事に関する人間関係を通じた情報には恵まれていないが、マスメディアやインターネットを通じた情報には他の若年層以上によく接しているようである。街頭演説やポスターなどが役に立ったという回答も多いが、他の若年層より街頭に出る機会が多いのであろうか。あるいは、政治や選挙に関心を持ち、それだけよく注意して見ているという可能性もある。

[大学生アンケート：問13]あなたは、次の方々と、政治や選挙についての話をすることがありますか。それについて、当てはまる番号を1つ選んで下さい。

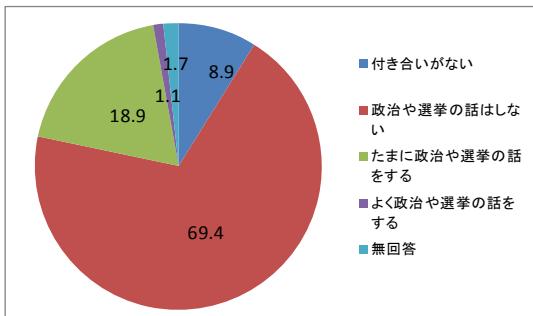
近所の人との会話



大学内の友人・知人との会話



学外の友人・知人との会話

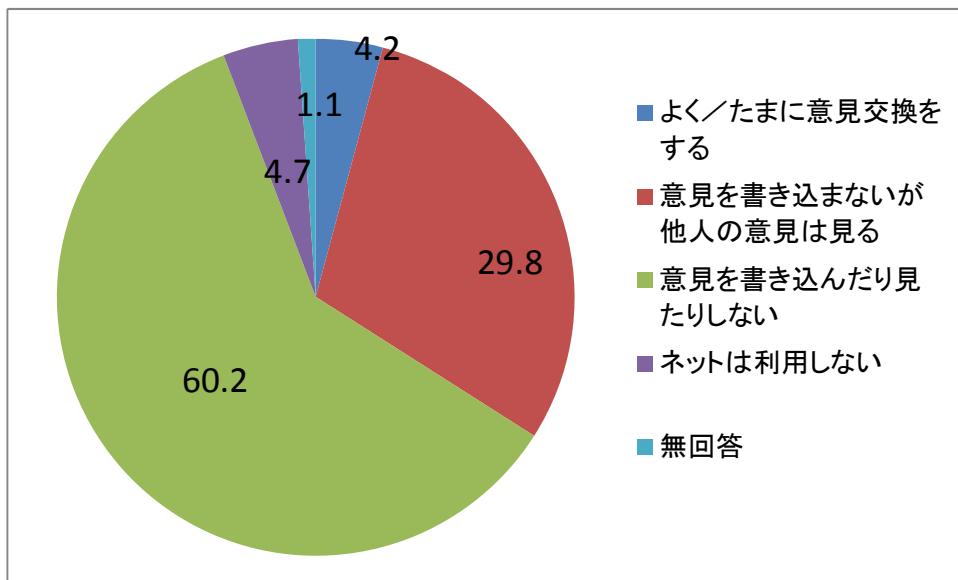


家族との政治や選挙についての会話は先の[大学生アンケート：問7]で質問したが、近所の人との会話について質問すると、付き合いがない人が多いのは[市民アンケート：問9]の20代の集計結果と同様だが、市民アンケートの20代で「付き合いがない」は48.1%であったのに対して、大学生アンケートではさらに多く56.5%となっている。これは、大学生に実家から離れて一人暮らしをしている「自宅外生」が多いためで、自宅生と自宅外生を比較すると（グラフは省略）、自宅生で近所の人と「付き合いがない」は49.0%であったのに対して、自宅外生では63.3%と、大きな差があった。

大学内外の友人・知人との会話については、「よく」と「たまに」を合わせても27.3%（学内）と20.0%（学外）であり、[市民アンケート：問9]の「友人・知人」の全体の集計結果44.7%に比べて少ない。しかし、市民アンケートの20代の24.1%に比べると、学内の友人との会話は多くなっている。

[市民アンケート：問9]の分析で述べたように、付き合いはあるものの政治や選挙についての会話があまり行われていない学内外の友人・知人との会話を促進することが、大学生の投票率向上に有効かもしれない。

[大学生アンケート：問14]あなたはインターネット上で、選挙や政治についての意見交換をすることがありますか（電子掲示板・フェイスブックやツイッター等のSNS・電子メールなど）。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

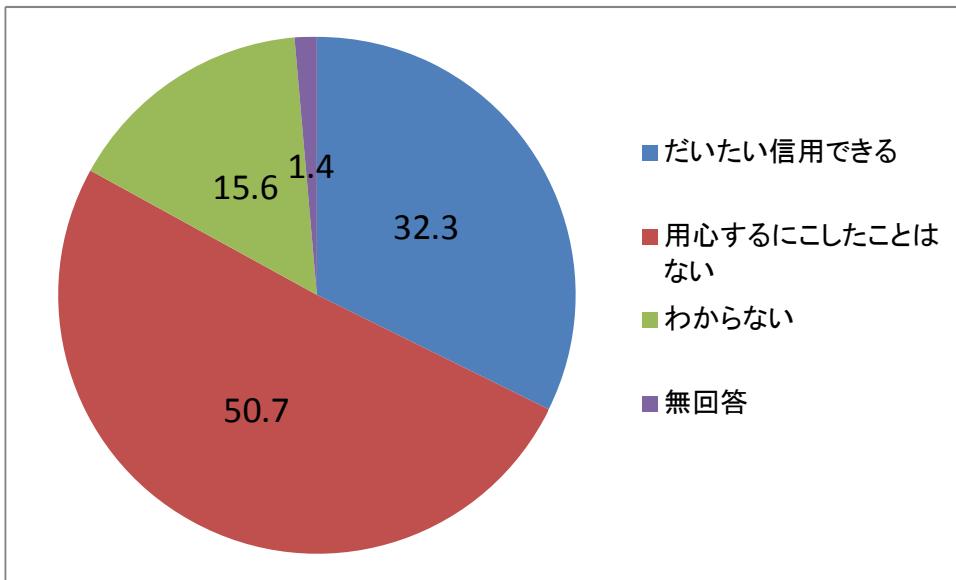


インターネット上の選挙や政治についての意見交換の状況を質問した[問14]については、最も多いのは「インターネットは利用するが、選挙や政治についての意見を見たり、書き込んだりはしない」(60.2%)で、選挙や政治についての情報をネットで得ている人でも、自らの意見を書き込み他人と意見交換する人は4.2%しかおらず、他人の意見を見るだけの人が多い(29.8%)。

同じ質問の[市民アンケート：問10]の20代の回答と比較すると、ネットを利用しない人（市民アンケートの20代11.1%、大学生アンケート4.7%）や、ネットは利用するが政治や選挙についての情報を得ることに使っていない人（市民アンケートの20代70.4%、大学生アンケート60.2%）は少なく、選挙や政治について意見交換をしたり（市民アンケートの20代0%、大学生アンケート4.2%）、書き込まないまでも他人の意見を見る人は多い（市民アンケートの20代16.7%、大学生アンケート29.8%）。

大学生は授業などの必要からインターネットをよく使っており、またそれがある程度は政治や選挙の情報の受発信に使っているようである。

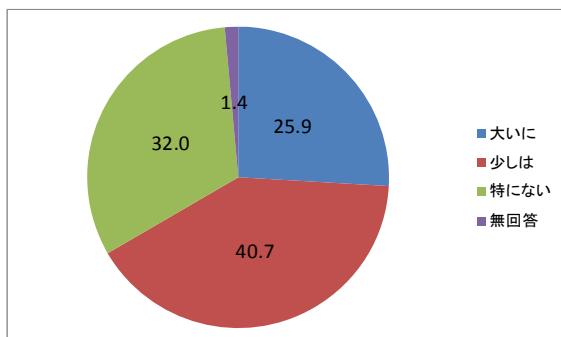
[大学生アンケート：問15]一般的にいって、人はだいたいにおいて信用できると思いますか、それとも人と付き合うには用心するにこしたことはないと思いますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。



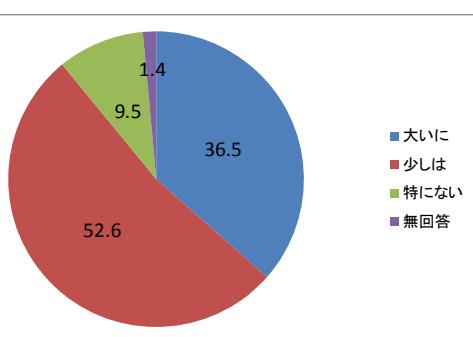
他人への信頼については、同じ質問の[市民アンケート：問11]の全体の集計結果と同様、「用心するにこしたことはない」(50.7%)の方が「信用できる」(32.3%)より多いが、市民アンケートの20代では「用心するにこしたことはない」が59.3%、「信用できる」が29.6%であったのに比べると、大学生の他者への信頼度は高い。このことは大学生の投票参加を高めるように作用すると考えられる。

[大学生アンケート：問16]あなたは、次のものについて、どの程度、愛着をお持ちですか。それについて、当てはまる番号を1つ選んで下さい。

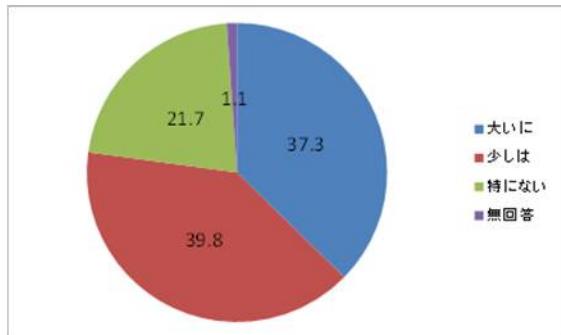
国への愛着



石川県への愛着



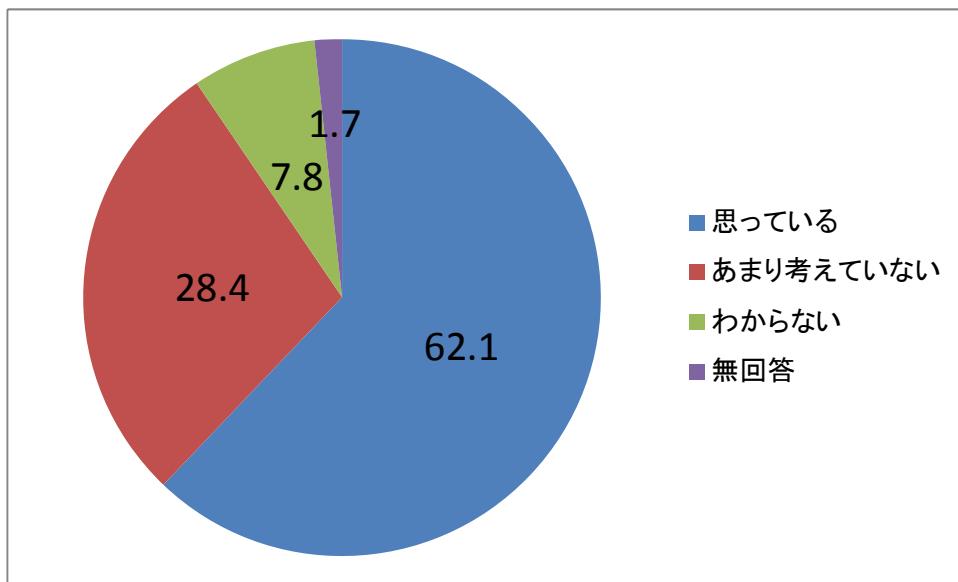
金沢市への愛着



愛着感については、同じ質問の[市民アンケート：問12]と同様、「大いに」は市が最も多く、県、国の順で続いている。

市民アンケートの20代の回答と比較すると、国について「大いに」は大学生の方が多いが（市民アンケートの20代33.3%、大学生アンケート36.5%）、県（市民アンケートの20代48.1%、大学生アンケート25.9%）と市（市民アンケートの20代57.4%、大学生アンケート37.3%）については愛着感がかなり低い。これは、大学生に県外・市外出身の「自宅外生」が多いためである。「自宅生」と「自宅外生」で愛着感を比較すると（グラフは省略）、国についてはほとんど違いがなかったが、県に「大いに愛着」は自宅生が46.9%、自宅外生が11.1%、市に「大いに愛着」は自宅生が56.6%、自宅外生が22.7%で、大きな差があった。

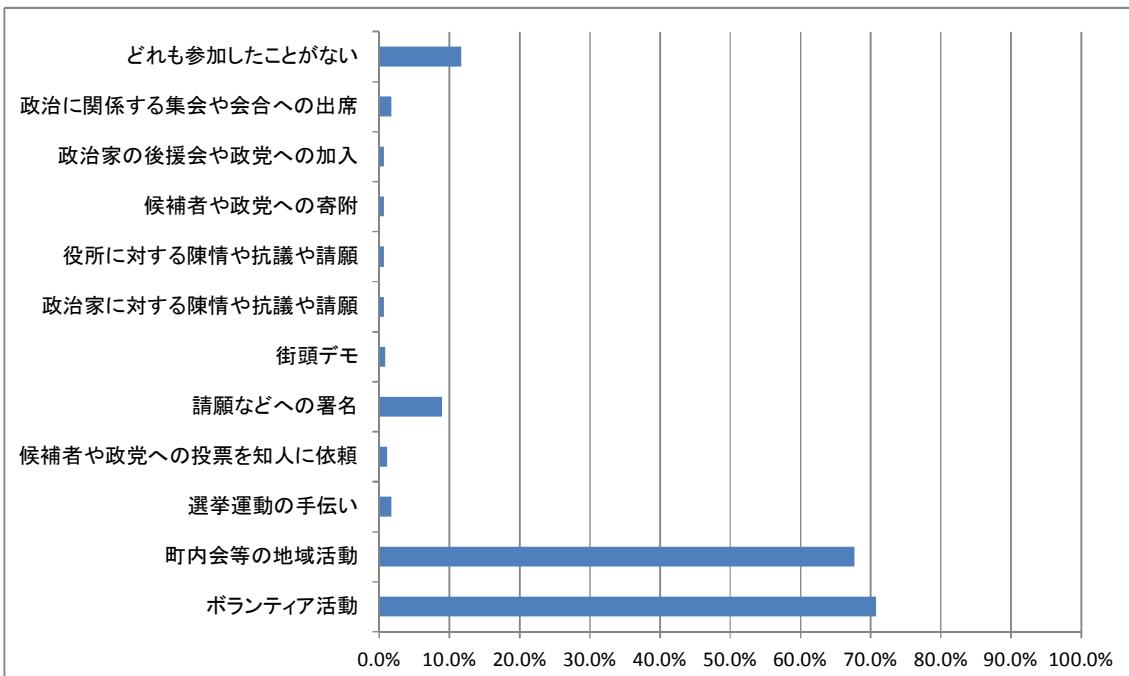
[大学生アンケート：問17]あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか、それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。



次に、社会貢献の意欲についての質問では、62.1%が「社会に役立ちたいと思っている」と回答し、「あまり考えていない」は28.4%であった。

同じ質問の[市民アンケート：問13]の20代の回答と比較すると、「わからない」が少なく（市民アンケートの20代22.2%、大学生アンケート7.8%）、「役立ちたいと思っている」が多くなっている（市民アンケートの20代50.0%、大学生アンケート62.1%）。このことは大学生の投票参加を高めるように作用すると考えられる。

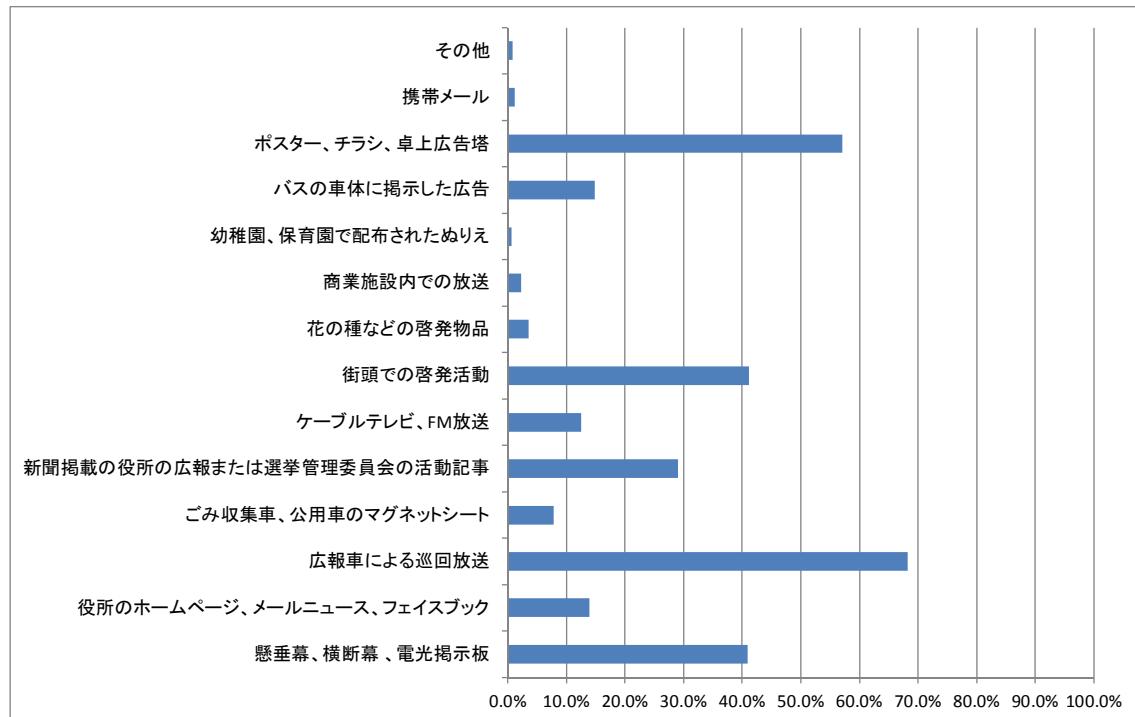
[大学生アンケート：問18]以下の活動について、参加した経験があるものがありますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。



次に、社会や政治に参加した経験について質問すると、「ボランティア活動」(70.8%) や「町内会等の地域活動」(67.7%) といった政治と直接関係のない活動への参加が多かった。

同じ質問の[市民アンケート：問14]の20代の回答と比べると、政治と関係のある活動が極端に少なくなっていることは共通しているが、「ボランティア活動」（市民アンケートの20代57.4%、大学生アンケート70.8%）や「町内会等の地域活動」（市民アンケートの20代50.0%、大学生アンケート67.7%）は市民アンケートの20代よりも10%以上も多かった。大学生アンケートの対象者に福祉を学ぶ学生が多かったことや、地元と協定を結んで学生が雪かきのボランティアをするなど、近年、大学の地域連携が盛んに行われていることの影響であろうか。一方、「請願などへの署名」は市民アンケートの20代20.4%、大学生アンケート8.9%）。仕事に就いていないため職場などで署名を請われる機会が少ないとあらうか。

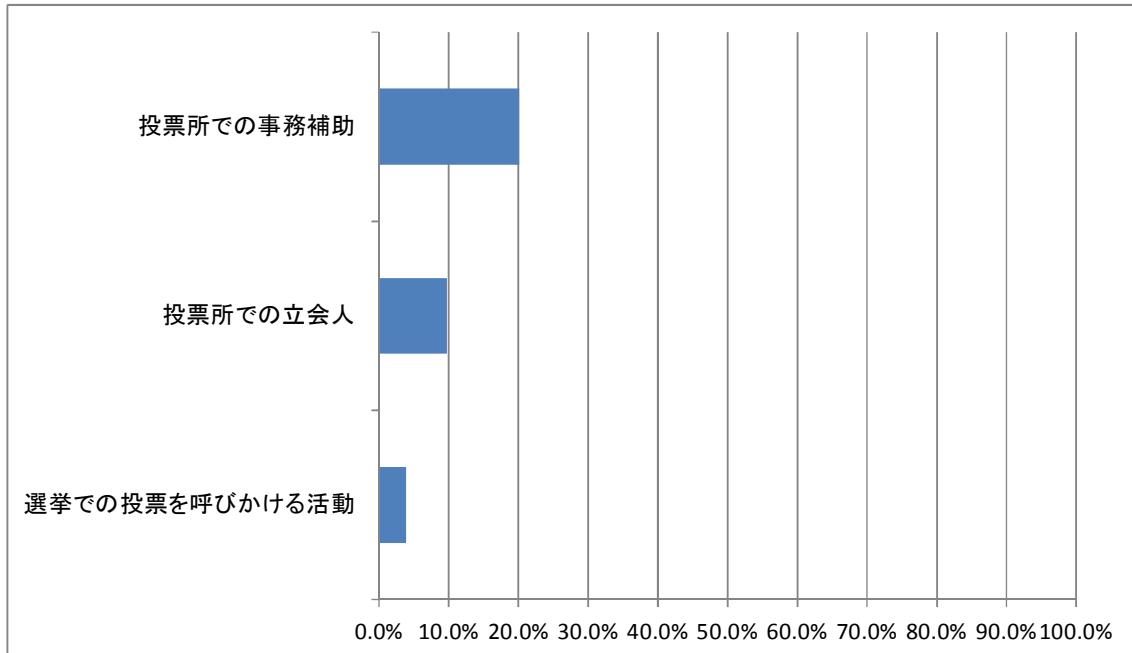
[大学生アンケート：問19]選挙管理委員会ではさまざまな方法で、選挙の広報をしていますが、以下のうちで、あなたが見たり聞いたりしたものがありますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。



選挙管理委員会の広報への接触についての質問で、「広報車による巡回放送」(68.2%)、「ポスター、チラシ、卓上広告塔」(57.1%)、「街頭での啓発活動」(41.2%)、「懸垂幕、横断幕、電光掲示板」(40.9%)、が多いのは、同じ質問の[市民アンケート：問15]の全体集計と同様であるが、「新聞掲載の役所の広報または選挙管理委員会の活動記事」(29.0%)は市民アンケートの全体集計 55.3%よりかなり少ない。最近の大学生が新聞を購読しないことの表れであろうか。

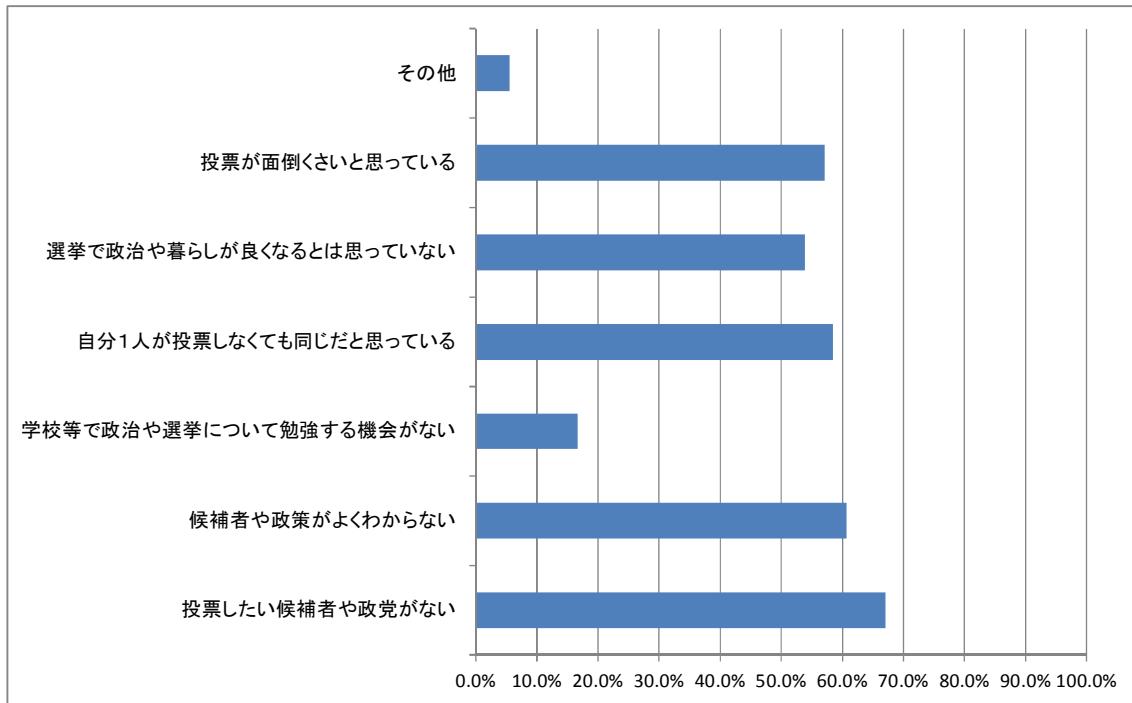
市民アンケートの20代と比べて5%以上多かったのは、「ケーブルテレビ、FM放送」(市民アンケートの20代 3.7%、大学生アンケート 12.5%)「懸垂幕、横断幕、電光掲示板」(市民アンケートの20代 33.3%、大学生アンケート 40.9%)「広報車による巡回放送」(市民アンケートの20代 63.0%、大学生アンケート 68.2%)で、5%以上少なかったのは、「バスの車体に掲示した広告」(市民アンケートの20代 25.9%、大学生アンケート 14.8%)である。アルバイト等のため中心市街地に行く機会が多いことや、自転車やバイクで通学しバスを使うことが少ないと、などの表れであろうか。

[大学生アンケート：問20]以下の選挙に関する事務や広報活動のうち、今後、参加してみたいものがありますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。



若年層に、選挙管理委員会の啓発活動や投票所での事務や立会人に参加してもらうことにより、選挙への関心を高めてもらおうという試みが、各地の選挙管理委員会で行われているが、「投票所での事務補助」に参加してみたいという回答は20.1%、「投票所での立会人」は9.7%、「選挙での投票を呼びかける活動」は3.9%で、まだ参加希望は少ない。特に詳しい説明を付けずに質問をしているので、具体的にどのようなことを行うのかが分からず選択しなかったということもあるかもしれない。

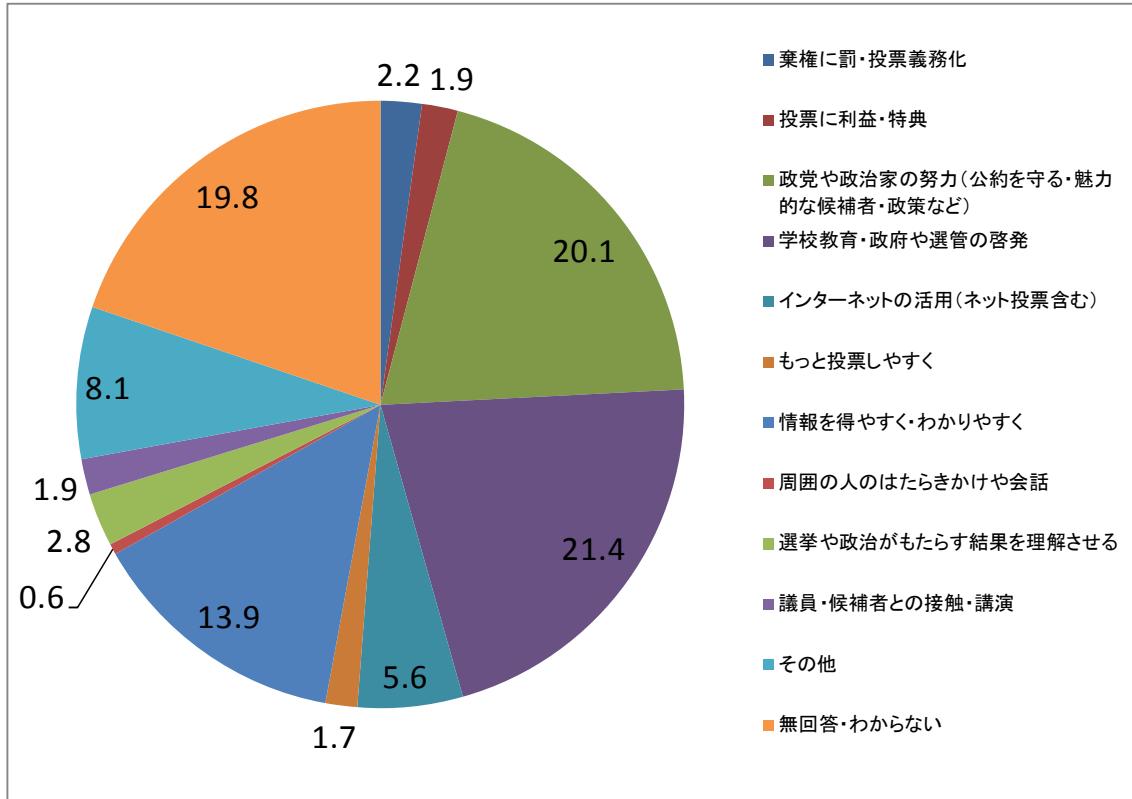
[大学生アンケート：問21]現在、特に若年層を中心として投票率が低下しているといわれていますが、その原因は何だとお考えですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。



若年層の投票率低下の原因について質問すると、同じ質問の[市民アンケート：問17]の20代の回答と同様、「投票したい候補者や政党がない」が最も多かったが、その割合は、市民アンケートの20代が75.9%であったのに対して、大学生アンケートは67.1%で少なかった。また、「選挙で政治や暮らしが良くなるとは思っていない」も、市民アンケートの20代が70.4%であったのに対して、大学生アンケートは53.8%で少なかった。

授業で選挙や政治について学んでいる大学生は、候補者や政党の違いや選挙が自身の暮らしに及ぼす影響について、ある程度認識しているのであろうか。

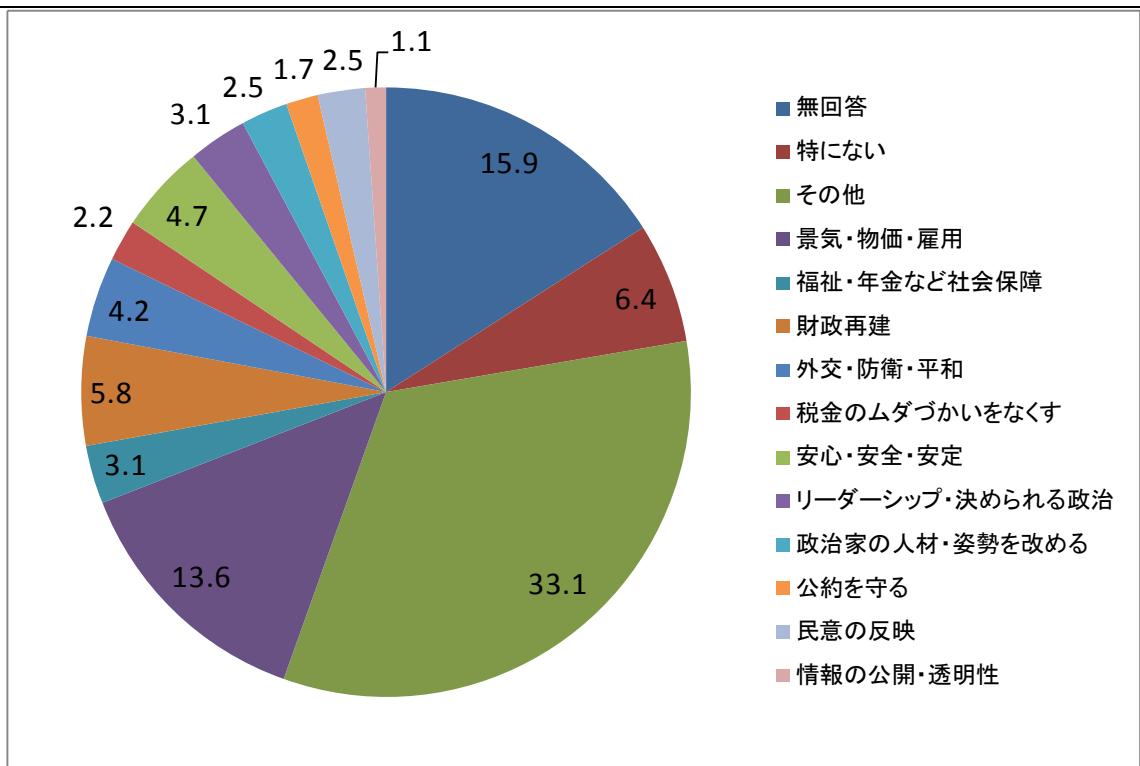
[大学生アンケート：問22]若年層に選挙に関心をもってもらうためには、どのようなことをすれば効果があると思いますか。ご自由にお書きください。



若年層に選挙に関心を持つてもらう方策についての自由記述を主要カテゴリーに分類して集計した。いずれのカテゴリーにも該当しない少數意見は「その他」とした。2つ以上の事項について記述があるものは、冒頭で記述されているものより重視しているとみなして集計した。

同じ質問の[市民アンケート：問18]の集計結果と同様、「学校での教育や政府や選挙管理委員会による選挙啓發」(21.4%) と「公約を守ったり魅力的な候補者や政策を出すなど政党や政治家の努力」(20.1%) が特に多かったが、「選挙に関する情報をもっと得やすく・分かりやすくする」(13.9%) もそれらに劣らず多かったのが大学生の特徴である。「インターネットの活用」(5.6%) も比較的多く、大学生はインターネットなども活用して、情報をもっと得やすく、また分かりやすくして欲しいという要望が強いようである。

[大学生アンケート：問23]あなたは政治に何を期待しますか。ご自由にお書きください。



政治に期待するものについての自由記述を主要カテゴリーに分類して集計した。いずれのカテゴリーにも該当しない少数意見は「その他」とした。2つ以上の事項について記述があるものは、冒頭で記述されているものより重視しているとみなして集計した。

集計の結果、自身の就職活動を意識してであろうか、「景気・物価・雇用」(13.6%) が最も多かった。「財政再建」(5.8%) や「安心・安全・安定」(4.7%)への関心も高い。財政破綻の危険性など将来への不安を感じているのであろうか。政治に期待することが「特ない」という回答も 6.4%と多く、無視できない割合である。

V おわりに

この報告書では、金沢市選挙管理委員会からの委託を受けて平成24年7月に行った金沢市民と大学生対象のアンケート調査の集計結果を分析し、若年層の低投票率の原因と有効な選挙啓発のあり方について考察をしてきた。分析を通じて浮かび上がってきたのは、選挙のしくみや意義についてはある程度理解しているものの、選挙で何が争われており政党や候補者の公約がどう違うかなど選挙の中身についての理解があまりないため選挙に関心を持てず、また、自身と社会のつながりについてまだあまり意識していないため、社会の方向性を決める選挙の重要性を感じられない、という若年層の姿である。

大学生については、授業やインターネットを通じて政治や選挙についての情報を比較的多く持ち、選挙への関心や社会に対する意識も高いなど、投票参加を促す条件に恵まれているが、一方で、自宅外生は近所の人との付き合いがなく地域への愛着も薄い、まだ若いため育児・少子化対策など生活に関わる争点について関心が持てない、仕事に関する人間関係を通じた情報に恵まれていない、など大学生特有の投票参加の阻害要因もある。さらには、自宅外生については住民登録が現住所に無いため容易に投票できない場合も少なくないようだ。

このまま若年層の投票率が低いと、若年層の声が政治に届かず政策の偏りにつながったり、選挙や民主主義の正統性への信頼が揺るぎかねない。また、若年層の投票率の低さが社会のことに関心を持って参加する若年層が少ないことを意味するとすれば、それは社会の活力の低下にもつながるだろう。

アンケートの分析で見えてきた若年層の姿を踏まえて、今後の選挙啓発のあり方について提言するなら、まず、若年層がよく利用するインターネットを積極的に活用するなどにより、選挙や政治に関する情報をもっと、しかも分かりやすく伝えていくことの重要性が指摘できる。それも、選挙のしくみや意義だけでなく、選挙で何が争われており政党や候補者の公約がどう違うかなど、選挙の実際的な中身に関する情報を伝えることが重要である。選挙が複数の選択肢から選ぶ喩えである以上、選択肢がどう違い、選択の結果が暮らしにどのような影響を及ぼすかを理解できるような情報が必要である。また、自分の身近なことに関心が留まりがちな若年層に、社会への関心を高め、社会の方向性を決める選挙の重要性を認識してもらうことも重要である。

アンケートでは、若年層に選挙に関心を持ってもらう方策について、学校での教育や、選挙管理委員会などによる啓発に期待する意見が多かった。近年、選挙管理委員会や明るい選挙推進協議会が学校の授業や大学の学園祭などに出向いて「出張講義」や「模擬投票」を行う自治体も増えてきており、今後より積極的な事業展開が望まれる。

しかし、一方では若年層の投票率低下の原因として学校等で選挙について勉強する機会がないことを挙げる意見は少なく、勉強する機会だけを増やしても、これまでのように選挙のしくみや意義を解説するだけでは投票率向上にあまり有効ではないと多くの人が考えて

いることも明らかになった。

選挙管理委員会等が直接、実施するのは難しいかもしれないが、たとえば、出張講義の際に、過去の選挙を例にとって選挙で何が争われ政党や候補者の公約がどう違い、選挙の結果がわれわれの暮らしにどのような影響を及ぼしたかなど、選挙の実際の中身にも触れて選択することの重要性を認識してもらったり、模擬投票の際に、仮想例ではなく実際の身近な政策課題を取り上げて議論した上で投票し、社会の方向性を決める選挙の重要性を認識してもらうと良いかもしれない。また、若年層に家族など周囲の人のはたらきかけや会話が投票のきっかけになったという回答が多くなったことから、それらの事業の実施にあたっては、その後の家族や友人との会話につなげるような工夫ができればなお良いのではないか。

この報告書が、今後の若年層に対する選挙啓発のあり方を考える上で参考になれば幸いである。

最後に、お忙しい中、市民アンケートにご回答を頂いた 1022 人々、大学生アンケートにご回答を頂いた 359 人々、調査にご協力頂いた金沢市選挙管理委員会及び大学教員の方々に厚く御礼申し上げたい。

金沢大学人間社会学域法学類・投票行動論研究室
代表 岡田 浩

VI 資料（調査票）

市民アンケート

各設問にある選択肢の中から当てはまるものを選んで、その番号に、①のように○印をつけて下さい。

[問1]あなたは、ふだん選挙の時に投票を行っていますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. いつも行っている
2. どちらかといえば行っている
3. どちらかといえば行っていない
4. 行ったことがない
5. その他 ()

[問2]過去に投票に行ったのは、どういうお気持ちからですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. (投票に行ったことがない)
2. 当選させたい候補者がいたから
3. 盛り立てたい政党があったから
4. その時の選挙に関心があったから
5. 政治をよくするためには、ともかく投票することが大事だから
6. 投票するのは義務だと思うから
7. 家族に言われたから
8. 入っている団体や組織や知り合いに頼まれたから
9. その他 ()

[問3]過去に投票に行かなかったのは、どういうお気持ちからですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. (いつも投票に行っている)
2. 選挙があることや投票日を知らなかつたから
3. 投票所の場所や施設が不便だったから
4. やむをえない用事があつたから
5. 病気などの身体の都合で行けなかつたから
6. 面倒だから
7. その時の選挙にあまり関心がなかつたから
8. 選挙の争点や候補者や政党についての情報がなく、よく分からなかつたから
9. 選挙のしくみが、よく分からなかつたから
10. 自分一人が投票してもしなくても結果は変わらず、同じだから
11. 選挙結果が予想できるような無風選挙だったから
12. どの候補者・政党にも期待できないから

次ページに続きます

13. のど候補者・政党もたいして違いが無いから

14. その他 ()

[問4]選挙でどの候補者や政党に投票するかを決める際に、おもに考えるのは次のうちどれですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. (投票に行ったことがない)

2. 国全体のこと

3. 住んでいる地域のこと

4. 自分の職業に関すること

5. 自分の入っている団体のこと (労働組合・宗教団体・市民団体など)

6. 自分個人や家族のこと

7. その他 ()

[問5]投票を行っているかどうかは別として、あなたは、どの選挙にもっとも関心がありますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 衆議院議員選挙

2. 参議院議員選挙

3. 知事選挙

4. 市長選挙

5. 県議会議員選挙

6. 市議会議員選挙

7. どれも関心がない

[問6]投票を行っているかどうかは別として、あなたはどのような選挙の争点に関心がありますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. 福祉・介護

2. 景気・物価・雇用

3. 財政再建

4. 消費税など税金問題

5. 年金問題

6. 環境・公害問題

7. 土地・住宅問題

8. 農林漁業対策

9. 中小企業対策

10. 政治とカネの問題

11. 外交・防衛問題

12. 憲法改正

次ページに続きます

13. 教育問題
14. 育児・少子化対策
15. 税金のムダづかいの問題
16. 脱官僚・政治主導の確立
17. 一票の格差是正や選挙制度改革の問題
18. 石川県や金沢市の地域振興の問題
19. 以上の争点のどれも関心なし

[問7]投票に行っているかどうかは別として、選挙の際に役立っていると思うものは何ですか。

当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. 選挙の直前に各戸に配布される選挙公報
2. 候補者や政党の演説会や街頭演説
3. 候補者や政党のビラ・ポスター・ハガキ
4. テレビの情報（選挙報道やコマーシャルや政見放送・経歴放送）
5. ラジオの情報（選挙報道やコマーシャルや政見放送・経歴放送）
6. 新聞の情報（選挙報道や新聞広告）
7. 週刊誌・雑誌の情報（選挙報道など）
8. インターネットの情報（候補者や政党のホームページ・選挙関連のホームページ
・フェイスブックやツイッター等のSNSなど）
9. 入っている団体からの情報（仕事関係の団体・労働組合・宗教団体・市民団体など）
10. 周りの人のすすめや会話
11. その他（ ）

[問8]ふだん支持している政党がありますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 支持している政党がある
2. 好ましいと思っている政党はある
3. 支持している政党はない

[問9]あなたは、次の方々と、政治や選挙についての話をすることができますか。それについて、当てはまる番号を1つ選んで下さい。

近所の人

1. 付き合いがない
2. 付き合いはあるが政治や選挙の話はしない
3. たまに政治や選挙の話をする
4. よく政治や選挙の話をする

家族・親戚

1. 付き合いがない

次ページに続きます

2. 付き合いはあるが政治や選挙の話はしない
3. たまに政治や選挙の話をする
4. よく政治や選挙の話をする

[職場・学校の人]

1. 付き合いがない
2. 付き合いはあるが政治や選挙の話はしない
3. たまに政治や選挙の話をする
4. よく政治や選挙の話をする

[友人・知人]

1. 付き合いがない
2. 付き合いはあるが政治や選挙の話はしない
3. たまに政治や選挙の話をする
4. よく政治や選挙の話をする

[入っている団体の人（仕事関係の団体・労働組合・宗教団体・市民団体など）]

1. 付き合いがない、または入っている団体がない
2. 付き合いはあるが政治や選挙の話はしない
3. たまに政治や選挙の話をする
4. よく政治や選挙の話をする

[問10]あなたはインターネット上で、選挙や政治についての意見交換をすることがありますか（電子掲示板・フェイスブックやツイッター等のSNS・電子メールなど）。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 選挙や政治について、よく意見交換をする
2. 選挙や政治について、たまに意見交換をする
3. 選挙や政治について、自分の意見を書き込むことはしないが、他人の意見は見る
4. インターネットは利用するが、選挙や政治についての意見を見たり、書き込んだりはない
5. インターネットは利用しない

[問11]一般的にいって、人はだいたいにおいて信用できると思いますか、それとも人と付き合うには用心するにこしたことはないと思いますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. だいたい信用できる
2. 用心するにこしたことはない
3. わからない

[問12]あなたは、次のものについて、どの程度、愛着をお持ちですか。それぞれについて、当てはまる番号を1つ選んで下さい。

国	1. 大いに愛着がある	2. 少しあは愛着がある	3. 愛着は特にない
石川県	1. 大いに愛着がある	2. 少しあは愛着がある	3. 愛着は特にない
金沢市	1. 大いに愛着がある	2. 少しあは愛着がある	3. 愛着は特にない

[問13]あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか、それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 思っている
2. あまり考えていない
3. わからない

[問14]以下の活動について、参加した経験があるものがありますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. ボランティア活動
2. 町内会等の地域活動
3. 選挙運動の手伝い
4. 候補者や政党への投票を知人に依頼
5. 請願などへの署名
6. 街頭デモ
7. 議員等政治家に対する陳情や抗議や請願
8. 役所に対する陳情や抗議や請願
9. 候補者や政党への寄附
10. 議員等政治家の後援会や政党への加入
11. 政治に関係する集会や会合への出席
12. 以上の活動のどれも参加したことがない

[問15]選挙管理委員会ではさまざまな方法で、選挙の広報をしていますが、以下のうちで、あなたが見たり聞いたりしたものがありますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. 懸垂幕、横断幕、電光掲示板
2. 金沢市ホームページ、メールニュース、フェイスブック
3. 広報車による巡回放送
4. ごみ収集車、公用車のマグネットシート
5. 新聞掲載の金沢市広報または選挙管理委員会の活動記事
6. ケーブルテレビ、FM放送
7. 街頭での啓発活動
8. 花の種などの啓発物品
9. 商業施設内での放送
10. 幼稚園、保育園で配布されたぬりえ

次ページに続きます

11. バスの車体に掲示した広告
12. ポスター、チラシ、卓上広告塔
13. ごみゼロドットコムの携帯メール
14. その他 ()

[問16] 当日に投票に行けない方のための制度の「期日前投票制度」をご存知ですか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 知っているし、利用したこともある
2. 知っているが、必要がなかったので利用したことはない
3. 知っているが、詳しい投票方法や場所が分からないので利用したことない
4. 知らない

[問17] 現在、特に若年層を中心として投票率が低下しているといわれていますが、その原因は何だとお考えですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. 投票したい候補者や政党がない
2. 候補者や政策がよくわからない
3. 学校等で政治や選挙について勉強する機会がない
4. 自分1人が投票しなくても同じだと思っている
5. 選挙で政治や暮らしが良くなるとは思っていない
6. 投票が面倒くさいと思っている
7. その他 ()

[問18] 若年層に選挙に関心をもってもらうためには、どのようなことをすれば効果があると思しますか。ご自由にお書きください。

[]

[問19] あなたのお年は満年齢でおいくつですか。

[]歳

[問20] あなたの性別はどちらですか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 男性
2. 女性

[問21] あなたのご職業は何ですか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 自営業・自由業 | 2. 家の仕事を手伝っている |
| 3. お勤め（会社員・公務員・団体職員など） | 4. パートやアルバイト |
| 5. 主婦 | 6. 無職 |
| 7. 学生 | 8. その他 () |

[問22] あなたは金沢市のお生まれですか。他所から移られてきた場合は何年ぐらいお住まいですか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 金沢市の生まれ
2. 金沢市の生まれではない（市に来て3年未満）
3. 金沢市の生まれではない（市に来て3年以上）

[問23]現在のお住まいのご家族は、以下のように分類した場合、どれにあたりますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 一人世帯（単身） | 2. 一世代世帯（夫婦のみ） |
| 3. 二世代世帯（親と子） | 4. 三世代世帯（親と子と孫） |
| 5. その他（
） | |

[問24]ご家族と同居してらっしゃる場合、ご家族は投票に行ってらっしゃいますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. （同居家族はない） | 2. 投票に行くことが多いようだ |
| 3. 契約することが多いようだ | 4. わからない |
| 5. その他（
） | |

[問25]あなたは次の団体に加入していますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. 政党や、政治家の後援会
2. 町内会
3. 婦人会・青年団・老人クラブ
4. PTA
5. 農協・漁協その他の農林漁業団体
6. 労働組合
7. 商工業関係の経済団体
8. 宗教関係の団体
9. スポーツ・同好会・趣味のグループ
10. 市民運動・消費者運動・婦人運動の団体・NPO
11. ボランティアの団体
12. どれにも加入していない

[問26] あなたの投票所はどちらですか（例：野町小学校など）。

[
]

お忙しい中、お時間をとってお答え頂きまして、本当にありがとうございました。大変恐縮ですが、返信用の封筒に入れてポストに投函して頂きますよう、よろしくお願ひ申し上げます（ボールペンは返送して頂かなくて結構です）。

大学生アンケート

各設問にある選択肢の中から当てはまるものを選んで、その番号に、(1.) のように○印をつけて下さい。

[問1] 現在、選挙権は20歳以上の人かもっていますが、これを18歳に引き下げようという意見があります。あなたは、選挙権を18歳に引き下げるに賛成ですか。反対ですか。当てはまる番号を1つ選び、その理由も書いて下さい。

1. 賛成 → その理由 ()

2. 反対 → その理由 ()

[問2] あなたは現在、選挙権がありますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 有る → [問3]にお進み下さい。

2. 無い → [問4]にお進み下さい。

[問3] (選挙権が有る場合にお答え下さい) 過去に投票に行ったことがありますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 行ったことがある → [問5]にお進み下さい。

2. 行ったことがない → [問6]にお進み下さい。

3. 選挙権を得てから、まだ選挙がない → [問7]にお進み下さい。

[問4] (選挙権が無い場合にお答え下さい) もし現在、選挙権があれば投票に行きますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. たぶん行く → [問5]にお進み下さい。

2. たぶん行かない → [問6]にお進み下さい。

[問5] (「投票に行ったことがある」あるいは「選挙権があればたぶん行く」を選択した場合にお答え下さい) その理由はなぜですか。ご自由にお書きください。

[] → [問7]にお進み下さい。

[問6] (「投票に行ったことがない」あるいは「選挙権があってもたぶん行かない」を選択した場合にお答え下さい) その理由はなぜですか。ご自由にお書きください。

[]

[問7]家族と政治や選挙の話をすることができますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 政治や選挙の話はしない
2. たまに政治や選挙の話をする
3. よく政治や選挙の話をする
4. その他 ()

[問8]みなさんの親は、投票に行ってらっしゃいますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 投票に行くことが多いようだ
2. 奉公することが多いようだ
3. わからない
4. その他 ()

[問9]ふだん支持している政党がありますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 支持している政党がある
2. 好ましいと思っている政党はある
3. 支持している政党はない

[問10]投票を行っているかどうかは別として、あなたは、どの選挙にもっとも関心がありますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 衆議院議員選挙
2. 参議院議員選挙
3. 知事選挙
4. 市／町長選挙
5. 県議会議員選挙
6. 市／町議会議員選挙
7. どれも関心がない

[問11]投票を行っているかどうかは別として、あなたはどのような選挙の争点に関心がありますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. 福祉・介護
2. 景気・物価・雇用
3. 財政再建
4. 消費税など税金問題
5. 年金問題

次ページに続きます

6. 環境・公害問題
7. 土地・住宅問題
8. 農林漁業対策
9. 中小企業対策
10. 政治とカネの問題
11. 外交・防衛問題
12. 憲法改正
13. 教育問題
14. 育児・少子化対策
15. 税金のムダづかいの問題
16. 脱官僚・政治主導の確立
17. 一票の格差是正や選挙制度改革の問題
18. 県や市・町の地域振興の問題
19. 以上の争点のどれも関心なし

[問12] 投票に行っているかどうかは別として、選挙の際に役立っていると思うものは何ですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. 選挙の直前に各戸に配布される選挙公報
2. 候補者や政党の演説会や街頭演説
3. 候補者や政党のビラ・ポスター・ハガキ
4. テレビの情報（選挙報道やコマーシャルや政見放送・経歴放送）
5. ラジオの情報（選挙報道やコマーシャルや政見放送・経歴放送）
6. 新聞の情報（選挙報道や新聞広告）
7. 週刊誌・雑誌の情報（選挙報道など）
8. インターネットの情報（候補者や政党のホームページ・選挙関連のホームページ
・フェイスブックやツイッター等のSNSなど）
9. 入っている団体からの情報
10. 周りの人のですすめや会話
11. その他（ ）

[問13] あなたは、次の方々と、政治や選挙についての話をすることができますか。それについて、当てはまる番号を1つ選んで下さい。

近所の人

1. 付き合いがない

次ページに続きます

2. 付き合いはあるが政治や選挙の話はしない
3. たまに政治や選挙の話をする
4. よく政治や選挙の話をする

大学内の友人・知人

1. 付き合いがない
2. 付き合いはあるが政治や選挙の話はしない
3. たまに政治や選挙の話をする
4. よく政治や選挙の話をする

学外の友人・知人

1. 付き合いがない
2. 付き合いはあるが政治や選挙の話はしない
3. たまに政治や選挙の話をする
4. よく政治や選挙の話をする

[問14]あなたはインターネット上で、選挙や政治についての意見交換をすることがありますか（電子掲示板・フェイスブックやツイッター等のSNS・電子メールなど）。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 選挙や政治について、よく意見交換をする
2. 選挙や政治について、たまに意見交換をする
3. 選挙や政治について、自分の意見を書き込むことはしないが、他人の意見は見る
4. インターネットは利用するが、選挙や政治についての意見を見たり、書き込んだりはしない
5. インターネットは利用しない

[問15]一般的にいって、人はだいたいにおいて信用できると思いますか、それとも人と付き合うには用心するにこしたことはないと思いますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. だいたい信用できる
2. 用心するにこしたことはない
3. わからない

[問16] あなたは、次のものについて、どの程度、愛着をお持ちですか。それについて、当てはまる番号を1つ選んで下さい。

国
石川県
住んでいる市・町

1. 大いに愛着がある 2. 少しは愛着がある 3. 愛着は特にならない
1. 大いに愛着がある 2. 少しは愛着がある 3. 愛着は特にならない
1. 大いに愛着がある 2. 少しは愛着がある 3. 愛着は特にならない

[問17]あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか、それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 思っている
2. あまり考えていない
3. わからない

[問18]以下の活動について、参加した経験があるものがありますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. ボランティア活動
2. 町内会等の地域活動
3. 選挙運動の手伝い
4. 候補者や政党への投票を知人に依頼
5. 請願などへの署名
6. 街頭デモ
7. 議員等政治家に対する陳情や抗議や請願
8. 役所に対する陳情や抗議や請願
9. 候補者や政党への寄附
10. 議員等政治家の後援会や政党への加入
11. 政治に関係する集会や会合への出席
12. 以上の活動のどれも参加したことがない

[問19]選挙管理委員会ではさまざまな方法で、選挙の広報をしていますが、以下のうちで、あなたが見たり聞いたりしたものがありますか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. 懸垂幕、横断幕、電光掲示板
2. 役所のホームページ、メールニュース、フェイスブック
3. 広報車による巡回放送
4. ごみ収集車、公用車のマグネットシート
5. 新聞掲載の役所の広報または選挙管理委員会の活動記事

次ページに続きます

6. ケーブルテレビ、FM放送
7. 街頭での啓発活動
8. 花の種などの啓発物品
9. 商業施設内での放送
10. 幼稚園、保育園で配布されたぬりえ
11. バスの車体に掲示した広告
12. ポスター、チラシ、卓上広告塔
13. 携帯メール
14. その他（ ）

[問20]以下の選挙に関する事務や広報活動のうち、今後、参加してみたいものがありますか。

当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. 選挙での投票を呼びかける活動
2. 投票所での立会人
3. 投票所での事務補助
4. どれも関心がない

[問21]現在、特に若年層を中心として投票率が低下しているといわれていますが、その原因は何だとお考えですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい。

1. 投票したい候補者や政党がない
2. 候補者や政策がよくわからない
3. 学校等で政治や選挙について勉強する機会がない
4. 自分1人が投票しなくても同じだと思っている
5. 選挙で政治や暮らしが良くなるとは思っていない
6. 投票が面倒くさいと思っている
7. その他（ ）

[問22]若年層に選挙に関心をもってもらうためには、どのようなことをすれば効果があると思しますか。ご自由にお書きください。

[]

[問23]あなたは政治に何を期待しますか。ご自由にお書きください。

[]

[問24]あなたは何年生（何回生）ですか。

[]

[問25]学部（学類）はどちらですか。

[]

[問26]あなたのお年は満年齢でおいくつですか。

[]歳

[問27]あなたの性別はどちらですか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 男性
2. 女性

[問28] あなたは実家から通っている自宅生ですか、それとも自宅生以外ですか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. 自宅生
2. 自宅生以外（下宿生・寮生など）

[問29]あなたは、現在、アルバイトをしていますか。当てはまる番号を1つ選んで下さい。

1. している
2. 現在はしていないが、過去にしたことはある
3. 全くしたことがない

[問30]出身高校の所在地はどちらですか。

1. 石川県
2. 石川県以外（都道府県名： ）
3. その他（ ）

[問31]あなたは現在、どちらの市／町に住んでいますか。

1. 金沢市
2. 白山市
3. その他（ 市／町）

お忙しい中、お時間をとってお答え頂きまして、本当にありがとうございました。